

令和3事業年度

事業報告書

日本中央競馬会

I 業務の実施状況

1. 令和3事業年度の業務の実施状況

(1) 競馬の実施等

① 競馬の開催状況

・開催回数 36回 ・開催日数 288日

(内訳)

競馬場	開催回数	開催日数	競馬場	開催回数	開催日数
札幌競馬場	2回	14日	東京競馬場	5回	44日
函館競馬場	1回	12日	中京競馬場	6回	45日
福島競馬場	2回	12日	京都競馬場	0回	0日
新潟競馬場	5回	36日	阪神競馬場	6回	53日
中山競馬場	5回	42日	小倉競馬場	4回	30日

② 発売金及び開催競馬場入場人員

発売金	3兆1,172億9,152万0,000円
入場人員	72万2,670名

③ 国庫納付金

第1国庫納付金	3,107億9,600万7,380円
第2国庫納付金	355億8,042万0,971円

④ 主な業績項目の数値

項目	数式	当該事業年度数値	
競馬開催計画 達成率	開催回数	開催実施回数／開催計画回数	100%
	開催日数	開催実施日数／開催計画日数	100%
職員一人当り の効率	対売上収入	売得金額／職員数	1,747,026千円
	対入場人員	入場人員数／職員数	406名
対売上収益率	剰余金／売得金額	2.28%	

(2) 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

登録の種類	〔J R A所属〕			〔その他〕 ※ i ii	
	登録の数	取消の数	本事業年度末数	国際関係	地方関係
馬主の登録	174名	101名	2,672名	2(2)名	22名
競走馬登録	5,282頭	5,303頭	8,890頭	3(3)頭	54頭
服色の登録	122件	100件	2,026件	2(2)件	—

※ i 「国際関係」：国際交流競走に係わる登録の数（カッコ内は取消の数）

ii 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる登録の数（取消の数は登録と同数）

(3) 調教師及び騎手の免許

免許の種類	〔J R A所属〕 ※ i ii			〔その他〕 ※ iii iv v		
	免許の数	取消の数	本事業年度末数	短期	国際関係	地方関係
調教師の免許	193名	1名	192名	—	2名	47名
騎手の免許	141名	2名	139名	1名	2名	10名

※ i 「免許の数」：3月1日付免許者数

ii 「取消の数」：免許期間を満了せずに事業年度途中で取り消した者の数

iii 「短期」：臨時試験による短期騎手免許者数（延人数）

iv 「国際関係」：国際交流競走・国際騎手招待競走に係わる免許者数（延人数）

v 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる免許者数（延人数）

(4) 競走馬の育成

日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、育成研究を目的として市場購買馬（令和2年購買の2歳馬75頭及び令和3年購買の1歳馬74頭）の育成を行いました。

また、日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、生産育成研究を目的としてJ R A生産馬（当歳9頭、1歳9頭及び2歳9頭）の育成を行いました。

(5) 騎手の養成・訓練

競馬学校において騎手の養成を行い、8名が卒業しました。令和3事業年度末現在の在校生数は25名となっています。

(6) 日本中央競馬会法第19条第2項第4号に掲げる業務

上記(1)～(5)の業務のほか、競馬の健全な発展を図るため必要な業務を行いました。

そのうち、特別振興資金を使用して、競馬振興事業を実施しました。

合計金額 109億8,416万6,688円

(7) 畜産振興事業

特別振興資金を使用して、畜産振興事業を実施しました。

合計金額 39億6,408万4,897円

(8) 払戻金への上乗せ

特別振興資金を使用して、1号給付金及び2号給付金を払戻金に上乗せしました。

1号給付金 33億6,238万9,360円

2号給付金 33億2,393万9,810円

合計金額 66億8,632万9,170円

(9) 競走馬生産振興業務への交付

地方競馬全国協会が行う「競走馬生産振興業務」に対して、特別振興資金を使用して、交付金を交付しました。

合計金額 13億8,600万0,000円

(10) 認定競馬活性化計画補助業務への交付

地方競馬全国協会が行う「認定競馬活性化計画補助業務」に対して、特別振興資金を使用して、交付金を交付しました。

合計金額 12億9,126万4,274円

(11) 借入金、財政投融资資金及び国庫補助金等による資金調達の状況

該当ありません。

2. 前事業年度までにおける業務の実施状況

(1) 競馬の実施等

① 競馬の開催状況

事業年度	平成 30 年		令和元年		令和 2 年	
	開催回数	開催日数	開催回数	開催日数	開催回数	開催日数
札幌競馬場	2 回	12 日	2 回	12 日	2 回	14 日
函館競馬場	2 回	12 日	2 回	12 日	2 回	12 日
福島競馬場	3 回	20 日	3 回	20 日	3 回	20 日
新潟競馬場	3 回	26 日	3 回	26 日	4 回	26 日
中山競馬場	5 回	41 日	5 回	41 日	5 回	43 日
東京競馬場	5 回	45 日	5 回	45 日	5 回	45 日
中京競馬場	4 回	26 日	4 回	26 日	3 回	23 日
京都競馬場	5 回	44 日	5 回	44 日	4 回	37 日
阪神競馬場	5 回	42 日	5 回	42 日	6 回	48 日
小倉競馬場	2 回	20 日	2 回	20 日	2 回	20 日
合 計	36 回	288 日	36 回	288 日	36 回	288 日

② 発売金及び開催競馬場入場人員

事業年度	発 売 金	入場人員
平成 30 年	2 兆 8, 161 億 6, 370 万 8, 300 円	626 万 6, 912 名
令和元年	2 兆 9, 117 億 0, 850 万 1, 300 円	623 万 6, 197 名
令和 2 年	3 兆 0, 004 億 8, 167 万 4, 200 円	99 万 0, 970 名

③ 国庫納付金

事業年度	第 1 国庫納付金	第 2 国庫納付金
平成 30 年	2, 805 億 8, 781 万 4, 500 円	277 億 3, 437 万 0, 621 円
令和元年	2, 899 億 5, 622 万 8, 310 円	305 億 7, 183 万 7, 819 円
令和 2 年	2, 991 億 1, 872 万 3, 780 円	307 億 6, 446 万 8, 332 円

④ 主な業績項目の数値

項 目		平成 30 年	令和元年	令和 2 年
競馬開催計画 達成率	開催回数	100%	100%	100%
	開催日数	100%	100%	100%
職員一人当り の効率	対売上収入	1,591,536 千円	1,642,811 千円	1,681,386 千円
	対入場人員	3,554 名	3,533 名	557 名
対売上収益率		1.97%	2.10%	2.05%

(2) 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

① 馬主の登録

事業年度	〔J R A 所属〕			〔その他〕 ※ i ii	
	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
平成 30 年	176 名	103 名	2,473 名	5(7)名	71 名
令和元年	165 名	70 名	2,568 名	0(2)名	31 名
令和 2 年	135 名	104 名	2,599 名	1(8)名	31 名

② 競走馬登録

事業年度	〔J R A 所属〕			〔その他〕 ※ i ii	
	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
平成 30 年	5,392 頭	5,223 頭	8,597 頭	7(7)頭	116 頭
令和元年	5,528 頭	5,322 頭	8,803 頭	0(0)頭	76 頭
令和 2 年	5,330 頭	5,222 頭	8,911 頭	1(1)頭	79 頭

③ 服色の登録

事業年度	〔J R A 所属〕			〔その他〕 ※ i
	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係
平成 30 年	136 件	105 件	1,935 件	5(7)件
令和元年	132 件	89 件	1,978 件	0(2)件
令和 2 年	134 件	108 件	2,004 件	1(8)件

※ i 「国際関係」：国際交流競走に係わる登録の数（カッコ内は取消の数）

ii 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる登録の数（取消の数は登録と同数）

(3) 調教師及び騎手の免許

① 調教師の免許

事業年度	〔J R A所属〕 ※ i ii			〔その他〕 ※ iv vi	
	免許の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
平成 30 年	193 名	1 名	192 名	7 名	105 名
令和元年	190 名	0 名	190 名	0 名	68 名
令和 2 年	195 名	2 名	194 名	1 名	70 名

② 騎手の免許

事業年度	〔J R A所属〕 ※ i ii			〔その他〕 ※ iii iv v vi			
	免許 の数	取消 の数	当該事業 年度末数	短期	国際 関係	特別 条件	地方 関係
平成 30 年	137 名	4 名	133 名	16 名	12 名	—	97 名
令和元年	141 名	3 名	138 名	12 名	5 名	1 名	71 名
令和 2 年	140 名	6 名	135 名	7 名	0 名	—	49 名

- ※ i 「免許の数」 : 3月1日付免許者数
 ii 「取消の数」 : 免許期間を満了せずにより事業年度途中で取り消した者の数
 iii 「短期」 : 臨時試験による短期騎手免許者数 (延人数)
 iv 「国際関係」 : 国際交流競走・国際騎手招待競走に係わる免許者数 (延人数)
 v 「特別条件」 : 特別条件該当者に対する臨時試験による1日限定の免許者数
 vi 「地方関係」 : 地方競馬との指定交流競走に係わる免許者数 (延人数)

(4) 競走馬の育成

事業年度	育成頭数	(内訳)	当歳馬	1歳馬	2歳馬
			平成 30 年	169(20)頭	9(9)頭
令和元年	174(24)頭	9(9)頭	84(9)頭	81(6)頭	
令和 2 年	177(27)頭	9(9)頭	84(9)頭	84(9)頭	

※ ()内は育成した J R A 生産馬の頭数 (内数)

(5) 騎手の養成・訓練

事業年度	競馬学校卒業者数	当該事業年度末在校生数
平成30年	3名	21名
令和元年	7名	21名
令和2年	4名	25名

(6) 日本中央競馬会法第19条第2項第4号に掲げる業務

- ① 平成30年、令和元年及び令和2年の各事業年度において、上記(1)～(5)の業務のほか、競馬の健全な発展を図るため必要な業務を実施しました。
- ② 競馬振興事業

事業年度	金額
平成30年	113億2,688万5,926円
令和元年	258億8,058万4,536円
令和2年	117億1,689万5,378円

(7) 畜産振興事業

事業年度	金額
平成30年	38億9,482万8,490円
令和元年	45億6,588万1,420円
令和2年	39億6,131万6,004円

(8) 払戻金への上乗せ

事業年度	金額	1号給付金	2号給付金
平成30年	64億4,954万5,420円	30億7,845万5,120円	33億7,109万0,300円
令和元年	64億7,166万8,810円	31億6,194万2,790円	33億0,972万6,020円
令和2年	66億2,186万1,060円	32億3,943万3,090円	33億8,242万7,970円

(9) 競走馬生産振興業務への交付

事業年度	金額
平成30年	24億5,500万0,000円
令和元年	13億2,000万0,000円
令和2年	23億1,600万0,000円

(10) 認定競馬活性化計画補助業務への交付

事業年度	金額
平成30年	7億3,779万3,099円
令和元年	11億5,026万4,300円
令和2年	27億3,986万3,495円

(11) 借入金、財政投融资資金及び国庫補助金等による資金調達状況

平成30年、令和元年及び令和2年の各事業年度において、該当ありません。

Ⅱ 日本中央競馬会の概要

1. 業務の内容

日本中央競馬会は、競馬の健全な発展を図って馬の改良増殖その他畜産の振興に寄与することを目的とし、その目的を達成するため次の業務を行うことが法定されています。

(1) 業務内容

- ① 中央競馬の実施
- ② 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録
- ③ 調教師及び騎手の免許
- ④ 競走馬の育成
- ⑤ 騎手の養成・訓練
- ⑥ 競馬法第 21 条の規定により委託を受ける競馬の実施に関する事務
- ⑦ その他競馬の健全な発展を図るため必要な業務
- ⑧ 畜産振興事業等について助成することを業務とする法人に対し、当該助成に必要な資金の全部又は一部を交付する業務
- ⑨ 競馬法附則第 5 条第 1 項第 1 号及び第 2 号に規定する当該勝馬投票の的中者に対し、給付金を交付する業務
- ⑩ 地方競馬全国協会が行う競走馬生産振興業務に対し、交付金を交付する業務（令和 4 事業年度までの間）
- ⑪ 地方競馬全国協会が行う認定競馬活性化計画補助業務に対し、交付金を交付する業務（令和 4 事業年度までの間）

(2) 根拠規定

日本中央競馬会法（昭和 29 年 7 月 1 日法律第 205 号）第 19 条

競馬法（昭和 23 年 7 月 13 日法律第 158 号）附則第 5 条及び第 8 条

2. 各事務所の所在地

名 称	郵便番号	所 在 地	電話番号
本部（※）	105-0003	東京都港区西新橋1丁目1番1号	03-3591-5251
馬事公苑	158-8523	東京都世田谷区上用賀2丁目1番1号	03-3429-5101
競馬学校	270-1431	千葉県白井市根 835 番地 1	047-491-0333
競走馬総合研究所	329-0412	栃木県下野市柴 1400 番 4 号	0285-44-0090
日高育成牧場	057-0171	北海道浦河郡浦河町字西舎 535 番地の 13	0146-28-1211
宮崎育成牧場	880-0036	宮崎県宮崎市花ヶ島町大原 2347 番地	0985-25-3448
栗東 トレーニング・センター	520-3085	滋賀県栗東市御園 1028 番地	077-558-0101
美浦 トレーニング・センター	300-0493	茨城県稲敷郡美浦村大字美駒 2500 番地 の 2	029-885-2111
札幌競馬場	060-0016	北海道札幌市中央区北 16 条西 16 丁目 1 番 1 号	011-726-0461
函館競馬場	042-8585	北海道函館市駒場町 12 番 2 号	0138-53-1021
福島競馬場	960-8114	福島県福島市松浪町 9 番 23 号	024-534-2121
新潟競馬場	950-3301	新潟県新潟市北区笹山 3490 番地	025-259-3141
中山競馬場	273-0037	千葉県船橋市古作 1 丁目 1 番 1 号	047-334-2222
東京競馬場	183-0024	東京都府中市日吉町 1 番地の 1	042-363-3141
中京競馬場	470-1132	愛知県豊明市間米町敷田 1225 番地	052-623-2001
京都競馬場	612-8265	京都府京都市伏見区葎島渡場島町 32 番地	075-631-3131
阪神競馬場	665-0053	兵庫県宝塚市駒の町 1 番 1 号	0798-51-7151
小倉競馬場	802-0841	福岡県北九州市小倉南区北方 4 丁目 5 番 1 号	093-962-3236

※令和3年8月18日に六本木6丁目11番1号から移転。

3. 資本金の総額及び政府の出資額並びにこれらの増減

資本金の総額	政府の出資額	前期末比増減
4,924,129,000 円	全額政府出資	増減なし

4. 役員の定数並びに各役員の氏名、役職、任期及び経歴等（令和3事業年度末現在）

（1）役員の定数

理事長 1 人、副理事長 1 人、理事 10 人以内及び監事 3 人以内

(2) 各役員の氏名、役職、任期、経歴

役 職	氏 名	任 期	経 歴
理 事 長	後藤 正幸	令和2年9月12日～令和5年9月11日	日本中央競馬会 常務理事
副理事長	本川 一善	令和2年3月1日～令和5年2月28日	農林水産事務次官
常務理事	木村 一人	令和3年3月1日～令和5年2月28日	日本中央競馬会理事
常務理事	吉田 正義	令和3年3月1日～令和5年2月28日	日本中央競馬会理事
理 事	福田 正二	平成31年3月1日～令和5年2月28日	日本中央競馬会 審判部長
理 事	臼田 雅弘	平成31年3月1日～令和5年2月28日	日本中央競馬会 広報部長
理 事	上野 儀治	令和2年3月1日～令和5年2月28日	日本中央競馬会 競走部長
理 事	新屋 勇人	令和3年3月1日～令和5年2月28日	日本中央競馬会 施設部長
理 事	植木 聡	令和3年3月1日～令和5年2月28日	日本中央競馬会 総合企画部長
理 事	清水 靖博	令和3年3月1日～令和5年2月28日	日本中央競馬会 プロモーション部長
理 事	橋本 次郎	令和3年10月1日～令和5年9月30日	日本中央競馬会総括監
監 事	勝見 浩二	令和3年10月1日～令和5年9月30日	日本中央競馬会参与
監 事 (非常勤)	田中佐知子	令和2年9月16日～令和5年9月15日	弁護士
監 事 (非常勤)	小谷実可子	令和2年9月16日～令和5年9月15日	NPO法人 日本ホスピタリティ協会理事

(3) 役員の変動

- ① 2月28日付けで木所康夫常務理事、吉崎一郎理事及び横田貞夫理事が退任し、翌3月1日付けで木村一人前理事及び吉田正義前理事が常務理事に、新屋勇人前施設部長、植木聡前総合企画部長及び清水靖博前プロモーション部長が理事に任命されました。
- ② 9月30日付けで小日向照夫監事が退任し、翌10月1日付けで勝見浩二前参与が監事に任命されました。
- ③ 10月1日付けで橋本次郎前総括監が理事に任命されました。

5. 職員の定数及びその増減（令和3事業年度末現在）

職員の定数	前期末比増減
1,779人	増減なし

6. 日本中央競馬会の沿革

昭和29年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本中央競馬会の設立（9月16日） 昭和23年に当時の「日本競馬会」の業務を継承したいわゆる「国営競馬」を引き継いで、競馬法（昭和23年7月13日法律第158号）により競馬を行う特殊法人として、日本中央競馬会法（昭和29年7月1日法律第205号）により設立
平成3年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行 <ul style="list-style-type: none"> ① 馬主の登録制度並びに調教師及び騎手の免許制度の改善 ② 馬主登録等がより公正に行われるための審査会の設置 ③ 日本中央競馬会の剰余金を有効に活用するための特別振興資金及び特別給付資金の新設 ④ 競馬振興事業及び畜産振興事業の新設 ⑤ 単勝式及び複勝式の勝馬投票の的中者に対し、特別給付金を交付する特別給付業務の新設
平成17年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 <ul style="list-style-type: none"> ① 中央競馬の実施に関する事務を政令で定めるところにより都道府県等に委託することができることを新たに規定 ② 勝馬投票券の購入等の制限の対象から成年である学生生徒が除外 ③ 単勝式及び複勝式の払戻率を改正（特別給付業務は平成16年末までの分をもって終了） ○ 「行政改革の重要方針」の閣議決定（12月24日） <ul style="list-style-type: none"> ① 現行の組織形態（特殊法人）を継続 ② 競馬の公正・中立性の確保上支障のない範囲において主務大臣の関与・規制の緩和 ③ 競争入札への移行の促進、子会社等の統合、外部監査の導入等を図ること
平成19年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行 <ul style="list-style-type: none"> ① 経営委員会の設置 ② 農林水産大臣の関与及び規制の緩和（規約についての関与の緩和、役員任免等に関して大臣認可を不要とすること等） ③ 1号給付金及び2号給付金を交付する業務の新設
平成24年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 払戻金の算出方法の見直し
平成27年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 海外競馬の競走についての勝馬投票の実施

7. 根拠法 日本中央競馬会法

8. 主務大臣 農林水産大臣

9. 経営委員会の概要（令和3事業年度末現在）

経営委員会は、日本中央競馬会法第8条の2の規定により設置され、農林水産大臣が任命する委員6人及び理事長の7人により構成されています。

(1) 各委員の氏名、任期及び職名等

氏名	任期	職名等
片山 雅文	令和元年9月1日～令和4年8月31日	(株)産経新聞社 常勤監査役
小林 栄三 (委員長)	令和元年9月1日～令和4年8月31日	伊藤忠商事(株) 名誉理事
酒井 順子	令和元年9月1日～令和4年8月31日	エッセイスト
田島 優子	令和元年9月1日～令和4年8月31日	弁護士
眞鍋 昇	令和元年9月1日～令和4年8月31日	大阪国際大学 学長補佐
山西健一郎 (委員長代理)	令和元年9月1日～令和4年8月31日	三菱電機(株) シニアアドバイザー

(2) 経営委員会の開催概要

- ① 第1回経営委員会（2月19日） ※書面表決
 - ・ 令和3事業年度予算実施計画（案）の議決
- ② 第2回経営委員会（2月24日）
 - ・ 役員任命について（案）の同意
- ③ 第3回経営委員会（3月18日）
 - ・ 令和2事業年度決算（案）の議決 ほか
- ④ 第4回経営委員会（4月16日）
 - ・ 日本中央競馬会競馬施行規約の一部改正について（案）の議決
 - ・ 令和2事業年度経営目標の達成状況に係る自己評価についての報告 ほか
- ⑤ 第5回経営委員会（5月21日） ※書面表決
 - ・ 令和2事業年度経営目標の達成状況の評価（案）の議決

⑥ 第6回経営委員会（7月8日）

- ・ 令和3事業年度事業計画の一部変更について（案）の議決
- ・ 9月20日の払戻金の率について（案）の議決 ほか

⑦ 第7回経営委員会（9月9日）

- ・ 役員任命について（案）の同意

⑧ 第8回経営委員会（10月14日）

- ・ 令和4事業年度事業計画（案）（「開催計画」「重賞競走の改善」に係る部分）の議決
- ・ 場外設備の変更承認申請について（案）の議決 ほか

⑨ 第9回経営委員会（11月18日）

- ・ 令和4事業年度経営目標（案）の決定
- ・ 令和4事業年度事業計画（案）の議決
- ・ 令和4事業年度収支予算（案）の議決
- ・ 12月28日の払戻金の率について（案）の議決 ほか

⑩ 第10回経営委員会（12月9日）

- ・ 「日本中央競馬会法第8条の3第2項第6号に該当する経営委員会の議決事項について」の一部改正について（案）の議決 ほか

（3）委員の異動

なし

10. 運営審議会の概要（令和3事業年度末現在）

日本中央競馬会法第16条の規定により、日本中央競馬会の業務の執行に関する重要事項を調査審議するため、理事長が農林水産大臣の認可を受けて任命する者により構成される運営審議会が設置されています。

（1）各委員の氏名、任期及び職名等

氏名	任期	職名等
大西 洋	令和3年9月16日～令和5年9月15日	日本空港ビルデング(株) 取締役副社長
川崎 麻児	令和3年9月16日～令和5年9月15日	日本画家
木村 貢	令和3年9月16日～令和5年9月15日	日高軽種馬農業協同組合 代表理事組合長
鈴木 淑子	令和3年9月16日～令和5年9月15日	競馬ジャーナリスト
佐藤 藍子	令和3年9月16日～令和5年9月15日	女優
武 豊	令和3年9月16日～令和5年9月15日	日本騎手クラブ 会長
土川 健之	令和3年9月16日～令和5年9月15日	前 日本中央競馬会 理事長
西川 賢	令和3年9月16日～令和5年9月15日	日本馬主協会連合会 会長
橋田 満	令和3年9月16日～令和5年9月15日	(一社)日本調教師会 会長
蓮見 恭子	令和3年9月16日～令和5年9月15日	小説家

（2）運営審議会の開催概要

- ① 第1回運営審議会（3月5日） ※書面表決
 - ・ 令和2事業年度決算（案）について
- ② 第2回運営審議会（4月13日） ※書面表決
 - ・ 日本中央競馬会競馬施行規約および日本中央競馬会競馬施行規程の一部改正について（案）
- ③ 第3回運営審議会（7月6日） ※書面表決
 - ・ 令和3事業年度事業計画の一部変更について（案）
- ④ 第4回運営審議会（10月12日） ※書面表決
 - ・ 令和4事業年度事業計画（案）（「開催計画」「重賞競走の改善」に係る部分）について

⑤ 第5回運営審議会（11月11日）

- ・ 令和4事業年度事業計画（案）について
- ・ 令和4事業年度収支予算（案）について
- ・ 日本中央競馬会競馬施行規約および日本中央競馬会競馬施行規程の一部改正について（案）

⑥ 第6回運営審議会（令和4年1月14日） ※書面表決

- ・ 日本中央競馬会競馬施行規約および日本中央競馬会競馬施行規程の一部改正について（案）

（3）委員の異動

9月15日付で大八木信行委員、岡本金彌委員、高嶋達佳委員、松本好雄委員が退任し、9月16日付で佐藤藍子氏、土川健之氏、西川賢氏、蓮見恭子氏が新たに委員に任命されました。

1.1. 公正審査会議の概要（令和3事業年度末現在）

日本中央競馬会法第20条の規定により、馬主の登録・抹消、調教師及び騎手の免許・取消し、行政不服審査法による審査請求に対する裁決などについて意見を聴くため、理事長が学識経験者から公正審査委員を任命し、委員による公正審査会議を開催しました。

（1）各委員の氏名、任期及び経歴

氏名	任期	経歴
石木 俊治	令和3年9月7日～令和5年9月6日	元 内閣法制局第四部長
石原 葵	令和3年9月7日～令和5年9月6日	元 日本中央競馬会副理事長
井上 美昭	令和3年9月7日～令和5年9月6日	元 関東管区警察局長
酒井 邦彦	令和3年9月7日～令和5年9月6日	元 広島高等検察庁検事長
酒井 啓子	令和3年9月7日～令和5年9月6日	千葉大学グローバル関係 融合研究センター長
福沢 恵子	令和3年9月7日～令和5年9月6日	(公財)日本女性学習財団理事
堀越 礼子	令和3年9月7日～令和5年9月6日	(株)朝日新聞社取締役

(2) 公正審査会議の開催概要

- ① 第1回公正審査会議 ※書面審査 (1月8日～1月15日)
 - ・ 馬主登録について (相続馬限定2件)
 - ・ 馬主登録について (法人馬主の限定的代表者変更1件)
 - ・ 馬主登録について (法人馬主代表者による個人馬主登録1件)
 - ・ 馬主登録について (組合馬主の組合員の追加1件)
- ② 第2回公正審査会議 ※書面審査 (2月1日～2月5日)
 - ・ 令和3年度調教師及び騎手免許について
 - ・ 馬主登録について (相続馬限定2件)
 - ・ 馬主登録について (個人馬主による法人馬主登録2件)
- ③ 第3回公正審査会議 ※書面審査 (3月4日～3月12日)
 - ・ 馬主登録について (相続馬限定1件)
 - ・ 馬主登録について (組合馬主の組合員の変更1件)
- ④ 第4回公正審査会議 (4月8日)
 - ・ 令和3年第1回馬主登録審査に係る馬主登録について (39件)
 - ・ 馬主登録について (個人馬主による法人馬主登録1件)
- ⑤ 第5回公正審査会議 ※書面審査 (5月7日～5月14日)
 - ・ 馬主登録について (個人馬主による法人馬主登録2件)
 - ・ 馬主登録について (法人馬主の代表者変更3件)
 - ・ 馬主登録について (法人馬主代表者による個人馬主登録1件)
 - ・ 馬主登録について (個人馬主の馬主登録取消しの猶予1件)
- ⑥ 第6回公正審査会議 ※書面審査 (6月3日～6月11日)
 - ・ 馬主登録について (個人馬主による法人馬主登録1件)
 - ・ 馬主登録について (組合馬主の組合員追加1件)
- ⑦ 第7回公正審査会議 (7月8日)
 - ・ 令和3年第2回馬主登録審査に係る馬主登録について (51件)
 - ・ 馬主登録について (法人馬主代表者による個人馬主登録2件)
 - ・ 馬主登録について (個人馬主による法人馬主登録3件)
 - ・ 馬主登録について (法人馬主の馬主登録取消しの猶予1件)

- ⑧ 第8回公正審査会議 ※書面審査（9月2日～9月10日）
- ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更3件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主代表者による個人馬主登録1件）
- ⑨ 第9回公正審査会議 ※書面審査（9月30日～10月8日）
- ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録1件）
- ⑩ 第10回公正審査会議（11月12日）
- ・ 令和3年第3回馬主登録審査に係る馬主の登録について（61件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員変更1件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録1件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主の馬主登録取消しの猶予3件）
- ⑪ 第11回公正審査会議（12月8日）
- ・ 令和4年度調教師免許（新規）について
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更1件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主代表者による個人馬主登録1件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録3件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員変更1件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員追加1件）

（3）委員の異動

9月6日付けで福地献一委員が退任し、9月7日付けで堀越礼子氏が新たに委員に任命されました。

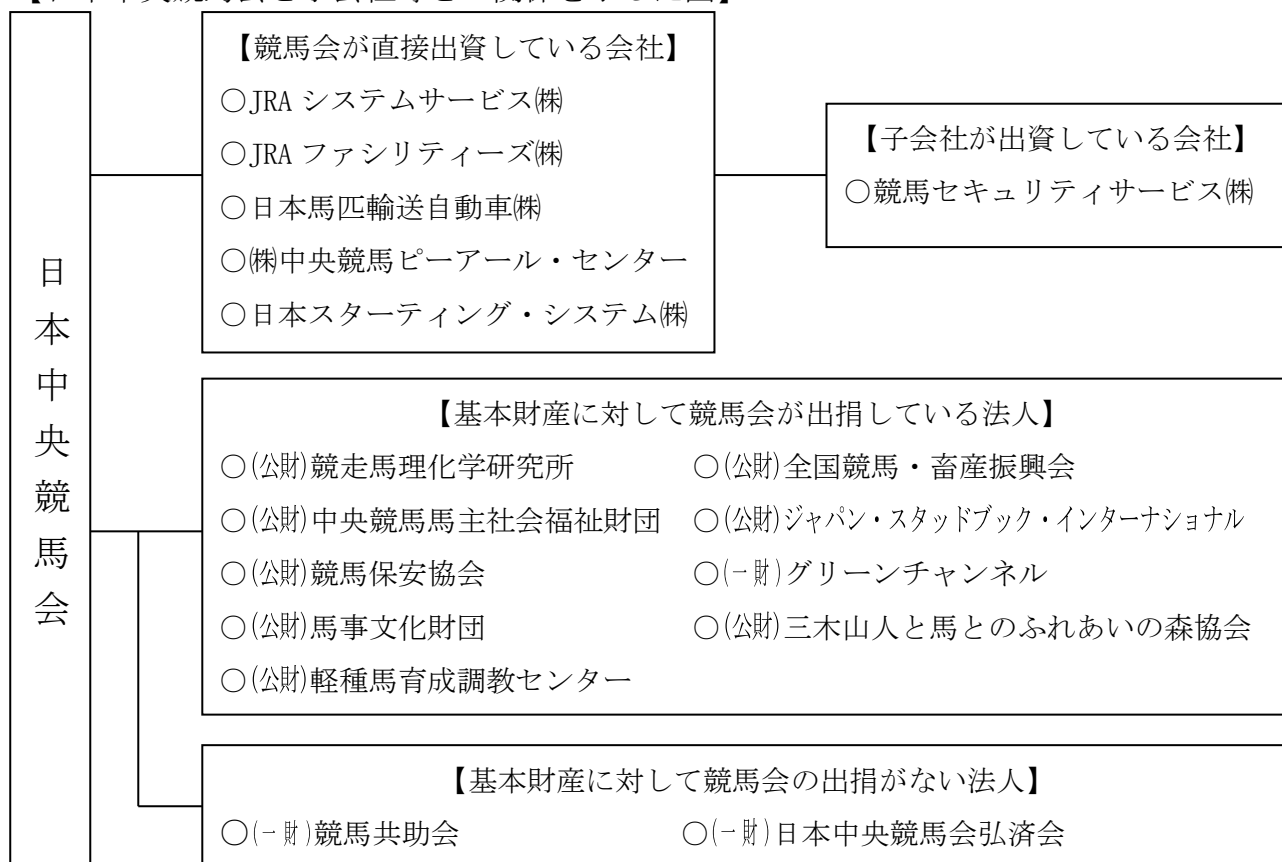
Ⅲ 子会社等に関する事項（令和3事業年度末現在）

1. 子会社等の状況

日本中央競馬会法施行規則（昭和29年農林省令第56号）第10条第3号に定める子会社等の状況は以下のとおりです。

- (1) 子会社：JRAシステムサービス(株)、JRAファシリティーズ(株)、日本馬匹輸送自動車(株)、(株)中央競馬ピーアール・センター、日本スターティング・システム(株)、競馬セキュリティサービス(株)
- (2) 関連会社：なし
- (3) 関連一般社団法人等：(公財)競走馬理化学研究所、(公財)中央競馬馬主社会福祉財団、(公財)競馬保安協会、(公財)馬事文化財団、(公財)軽種馬育成調教センター、(公財)全国競馬・畜産振興会、(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル、(-財)グリーンチャンネル、(公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会、(-財)競馬共助会、(-財)日本中央競馬会弘済会

【日本中央競馬会と子会社等との関係を示した図】



2. 子会社の名称、住所、資本金、事業内容、役員数、代表者の氏名、従業員数、日本中央競馬会の所有する議決権の議決権の総数に対する割合及び日本中央競馬会との関係

子会社の名称・住所 代表者の氏名 資本金 競馬会の議決権所有割合	主な事業内容	売上高 当期純利益 利益剰余金 (R2 決算額)	役員数 (うち常勤) 従業員数	競馬会との関係 ア 売上高中の競馬会との取引額 (R2 実績) イ 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
JRAシステムサービス㈱ 【平成 19 年 10 月設立】 東京都江東区永代 1-14-5 代表取締役社長 中村 嘉宏 500,000千円 54.5% (子会社を含めた議決権の所有割合 100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・トータリゼータシステム及び各種情報処理システム並びにそれらのシステムに関連する機器の運用及び保守整備 ・競馬に関する情報の提供 ・各種機器・車両及び競馬用諸設備の売買及び賃貸借並びにそれらに付帯する物品の売買及び賃貸借 	(百万円) 18,098 ▲175 6,718	(人) 15 (12) 530	ア 14,670百万円 イ ・トータリゼータシステム等の運用保守管理業務 ・トータリゼータシステム等のソフトウェア開発業務 ・競馬に関する情報提供システムの運用業務 ・電子計算機等のリース業務 ウ なし
JRAファシリティーズ㈱ 【平成 19 年 10 月設立】 東京都中央区八丁堀 3-19-9 代表取締役社長 木所 康夫 300,000千円 94.9% (子会社を含めた議決権の所有割合 100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・建物、馬場、造園及び各種設備の保守管理並びに関連資材の販売 ・施設等の清掃、環境衛生、防疫、廃棄物の管理及び警備 ・出走馬一覧表等各種刊行物の作製及び版下作成 ・飼糧、敷料及び添加物等の輸入並びに販売 ・損害保険代理業及び生命保険の募集等 	20,940 294 11,165	15 (12) 461	ア 16,998百万円 イ ・諸施設の清掃業務 ・レーシングプログラムの作製 ・建物、設備、馬場等の設計管理業務 ・損害保険代理業務 ウ なし
日本馬匹輸送自動車㈱ 【昭和 22 年 8 月設立】 東京都港区新橋 6-20-11 代表取締役社長 谷崎 潤 36,000千円 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・競走馬の輸送 	2,000 21 1,472	5 (3) 96	ア 1,975百万円 イ ・競走馬輸送業務 ウ なし
㈱中央競馬ピーアール・センター 【昭和 53 年 10 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 代表取締役社長 福井 紳弥 20,000千円 64.3% (子会社を含めた議決権の所有割合 100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・競馬及び馬文化等に関する図書及び印刷物の企画、編集、制作、出版及び販売 ・競馬及び馬文化等に関する映像業務、音声業務並びにその機器の運用、開発、販売、賃貸及び保守整備 ・競馬及び馬文化等に関する各種情報の収集及び提供 	5,471 ▲57 2,045	7 (5) 112	ア 3,147百万円 イ ・映像伝送ネットワークシステム運用保守管理業務 ・競馬実況中継放送代理業務 ウ なし
日本スターティング・システム㈱ 【昭和 40 年 9 月設立】 東京都港区西新橋 1-22-10 代表取締役社長 横田 貞夫 10,000千円 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・発馬機及びその周辺機器等の運用並びに保守整備 ・発馬機及びその周辺機器の賃貸並びに販売 ・競走馬の発走に関する補助 	1,583 150 1,103	7 (4) 67	ア 1,567百万円 イ ・発馬機作業及び機材輸送業務 ウ なし
競馬セキュリティサービス㈱ 【平成 4 年 11 月設立】 東京都港区西新橋 3-2-1 代表取締役社長 小日向 照夫 100,000千円 0% (子会社を含めた議決権の所有割合 100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・総合警備保障業務 ・労働者派遣業務 	3,085 32 2,317	5 (3) 107	ア 2,624百万円 イ ・諸施設の常駐警備業務 ・競馬開催に係る警備業務、案内業務及び競馬開催補助業務 ウ なし

3. 関連一般社団法人等の名称、住所、基本財産、事業内容、役員数、代表者の氏名、職員数及び日本中央競馬会との関係

関連一般社団法人等の名称・住所 代表者の氏名 基本財産	主な事業内容	年間収入 (R2 決算額)	役員数 (うち常勤) 従業員数	競馬会との関係 ア 年間収入中の競馬会支出額 (R2 実績) イ 競馬会の業務との関係及び 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
(公財)競走馬理化学研究所 【昭和 40 年 8 月設立】 栃木県宇都宮市砥上町 321-4 理事長 安齊 了 1, 030, 045 千円	<ul style="list-style-type: none"> 競走馬に施用される薬品及び薬剤の検査及び研究 騎手に施用され、又は騎手を使用する薬品及び薬剤の検査及び研究 馬の親子判定及び個体識別に係る検査及び研究 農畜産物等に使用される薬品及び薬剤等の検査及び研究 	(百万円) 1, 616	(人) 6 (3) 58	ア 984 百万円 イ 「日本中央競馬会競馬の施行等に関する規約」に定める競走馬に係る薬物検出機関 ・競走馬薬物検査業務 ・薬物検査法の開発に関する研究委託業務 ウ なし
(公財)中央競馬馬主社会福祉財団 【昭和 44 年 10 月設立】 東京都港区虎ノ門 1-2-10 理事長 畑山 光伸 5, 515, 492 千円	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉を目的とする事業に対する助成 国又は地方公共団体が後援等を行っている公益事業に対する助成 中央競馬関係者の福利厚生の上向のための事業 	625	11 (1) 6	ア なし イ 競馬会が馬主に交付した競馬賞金の一部を使用してその事業を実施 ウ 理事(非常勤) 後藤 正幸(競馬会理事長) 理事(非常勤) 木村 一人(競馬会常務理事)
(公財)競馬保安協会 【昭和 46 年 5 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 理事長 倉田 潤 10, 000 千円	<ul style="list-style-type: none"> 競馬の公正確保のために必要な調査並びに情報及び資料の収集 競馬の公正確保のために必要な研究 	1, 612	5 (5) 143	ア 1, 462 百万円 イ 競馬の公正確保に必要な調査等を実施 ウ なし
(公財)馬事文化財団 【昭和 51 年 4 月設立】 神奈川県横浜市中区根岸台 1-3 理事長 小林 善一郎 1, 833, 057 千円	<ul style="list-style-type: none"> 馬に関する文献、標本、写真、フィルム等の博物資料(以下「馬事博物資料」)の収集、保管及び展示 馬事博物資料に関する印刷物の編集及び刊行 根岸競馬記念公苑の馬の博物館その他施設の管理運営 	587	6 (2) 24	ア 285 百万円 イ 根岸競馬記念公苑「馬の博物館」、東京競馬場「JRA 競馬博物館」及び「Gate. J」の管理運営等を実施 ウ なし
(公財)軽種馬育成調教センター 【平成 3 年 3 月設立】 北海道浦河郡浦河町字西舎 528 理事長 大平 俊明 1, 000, 000 千円	<ul style="list-style-type: none"> 軽種馬の競走能力の向上等に関する調査研究 育成調教技術者の養成 共同利用に供する育成調教施設の運営・管理 	814	7 (2) 40	ア 495 百万円 イ 日高育成牧場の日高育成総合施設軽種馬育成調教場の管理運営等を実施 ウ なし
(公財)全国競馬・畜産振興会 【平成 3 年 10 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 会長 小西 敏之 1, 000, 000 千円	<ul style="list-style-type: none"> 競馬の健全な発展を図るための事業に対する助成 畜産の振興に資するための事業等に対する助成 	176	7 (2) 11	ア 124 百万円 イ 競馬の健全な発展を図るための事業並びに畜産振興事業等に対する助成等を実施 ウ なし

関連一般社団法人等の名称・住所 代表者の氏名 基本財産	主な事業内容	年間収入 (R2 決算額)	役員数 (うち常勤) 職員数	競馬会との関係 ア 年間収入中の競馬会支出額 (R2 実績) イ 競馬会の業務との関係及び 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
(公財)ジャパン・スタッドブック・ インターナショナル 【平成22年12月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 理事長 井上 眞 1, 040, 830千円	<ul style="list-style-type: none"> ・海外における競馬に関する情報の収集及び提供並びに我が国の競馬に関する情報の海外への提供 ・競馬の施行、競走馬の育成に関する海外の競馬関係者との技術の交流 ・軽種馬の登録及び登録証明書の発行 ・軽種馬の登録書その他関係図書の刊行 	(百万円) 810	(人) 6 (3) 37	ア 454百万円 イ 競馬会が必要とする海外における競馬に関する情報の収集・提供及び競馬会の行う馬の登録の基礎となる軽種馬の血統登録等を実施 ウ 監事(非常勤) 臼田 雅弘(競馬会理事)
(一財)グリーンチャンネル 【平成5年9月設立】 東京都江東区永代 1-14-5 理事長 横山 清弘 1, 000, 000千円	<ul style="list-style-type: none"> ・競馬、馬事文化及び農林水産業等に関する放送、供給及び配信業務 ・競馬、馬事文化及び農林水産業等に関する番組の制作及びその支援 	4, 821	8 (4) 23	ア 375百万円 イ 中央競馬等の映像情報に関する番組制作、放送等を実施 ウ なし
(公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会 【平成6年6月設立】 兵庫県三木市別所町高木 三木ホースランドパーク 理事長 仲田 一彦 200, 000千円	<ul style="list-style-type: none"> ・野外、体験活動等による交流事業の実施 ・馬事に関する普及啓発 ・乗馬施設等馬事に関する施設の整備及び維持管理 	437	8 (1) 18	ア 714百万円 イ 兵庫県三木市における乗馬施設等馬事に関する施設の管理運営等を実施 ウ なし
(一財)競馬共助会 【昭和23年9月設立】 東京都府中市日吉町 1-1 会長 吉崎 一郎 1, 500, 000千円	<ul style="list-style-type: none"> ・厩舎関係者等に対する福利厚生に関する事業 ・診療所及び厚生会館の運営 ・競馬愛好者の利便に資するための厚生施設の管理・運営 ・競馬文化発展に資する事業 	1, 760	7 (3) 81	ア 795百万円 イ 中央競馬厩舎関係者の福利厚生団体 ウ 理事(非常勤) 臼田 雅弘(競馬会理事)
(一財)日本中央競馬会弘済会 【昭和39年12月設立】 東京都港区西新橋 1-1-1 会長 峯島 善弘 1, 600, 000千円	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産に関する調査研究及び資料の収集 ・職員の福利厚生に関する事業 	170	8 (2) 5	ア なし イ 競馬会職員の福利厚生団体 ウ なし

IV 日本中央競馬会が対処すべき課題

1. 閣議決定

(1) 「特殊法人の整理合理化について」(平成7年2月24日閣議決定)

地方競馬との交流競走の拡大を図るとともに、通信衛星による競馬映像情報の提供、地方競馬場における中央競馬の勝馬投票券の発売等を進めることにより、ファンサービスの改善と地方競馬への支援に努める。また、勝馬投票券の発売・払戻の自動化等により勝馬投票業務の効率化に努める。

(2) 「特殊法人等整理合理化計画」(平成13年12月19日閣議決定)

管理経費・競走事業費の削減など更なる事業の効率化を図る。その一環として、公正確保と両立させつつ、一般競争入札等の範囲を大幅に拡大するとともに、関係会社等に対する委託費等を削減する。

(3) 「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)

事業

【助成金交付事業】

- 当事業の透明性向上のためにこれまで講じている外部有識者委員会による助成事業の選定・評価、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律の規定の準用等に加え、助成事業の評価結果を全面的に公表する仕組みを導入する。
- 国の畜産関係補助金との役割分担を明確化する。

【中央競馬関係事業】

- 競争性のある契約のうち競馬の公正・中立性の確保上支障のない契約については、そのすべての契約を、平成22年までのできる限り早い時期に競争入札に移行させる。
- 子会社・関係会社の組織・事業の再編・統廃合を実施する。
- 入札結果・経営内容等の情報開示を一層進める。

【その他】

- 外部監査を導入する。

組 織

- 組織運営について、一層の効率化を図るため、次の措置を講ずる。
 - ・ 競馬の公正・中立性の確保上支障のない範囲において主務大臣の関与・規制の緩和
 - ・ 内部組織として学識経験者等で構成される中立性を有する機関の設置
 - ・ 当該機関による定量的な経営目標の設定及び業績評価の実施
 - ・ 当該経営目標の公表及び当該業績評価の結果の公表
 - ・ 経営不調時における役員解任規定導入

2. 「特殊法人に関する行政評価・監視結果に基づく勧告（日本中央競馬会）」

（平成 14 年 1 月 18 日総務大臣から農林水産大臣へ勧告）

支出の見直しについて

（1）経費の節減等

- ア) 施設整備の抑制
- イ) 施設利用料の適正化
- ウ) 子会社等との契約の見直し
- エ) 窓口業務の自動化に伴う要員縮減の推進
- オ) 競走事業費の支出の抑制

（2）ウインズの新設の抑制と運営の効率化

（3）抽せん馬制度の見直し

3. 「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」の施行に伴う情報公開への適切な対応（平成 14 年 10 月 1 日法律施行）

4. 「ギャンブル等依存症対策基本法」の施行に伴う適切な対応（令和元年 10 月 5 日法律施行）

この事業報告書は、日本中央競馬会法施行規則第 10 条の規定に基づき、記載しています。
なお、日本中央競馬会の事業年度は、1 月 1 日から 12 月 31 日までとなっています。

J R Aの事業活動について

(令和3事業年度)

— J R Aは、毎週走り続けます。 —

(令和3事業年度事業報告書別冊)

はじめに

令和3事業年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大が世界の社会・経済等に大きな影響を及ぼしましたが、このような状況の下、JRAは、新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底したうえで、「お客様とともに」「夢と感動とともに」「信頼とともに」「社会とともに」「そして未来へ」の5項目で構成する「経営の基本方針」に沿って事業活動を行ってまいりました。

競馬の開催においては、新型コロナウイルス感染症の感染状況や社会情勢等を踏まえ、開催競馬場へのお客様の入場やウインズ等の営業の制限等を行いながら、全国9か所の競馬場において、令和3事業年度の経営目標の基本目標の一つである、年間288日(36開催)の競馬を着実に実施することができました。

こうした中、引き続き、電話・インターネット投票会員を中心に多くのお客様に競馬にご参加いただいたことに加え、秋以降、政府の感染防止対策や行動制限緩和の進捗状況を踏まえつつ、感染対策の徹底を行ったうえで、競馬場へのお客様の入場の制限を段階的に緩和するとともに、ウインズ等においても映像のご提供を再開する等、徐々に現金発売事業所の制限の緩和を進めた結果、もう一つの基本目標である、お客様総数(海外競馬分を含む)についても、延べ1億8,076万名余(対前年比106.6%)と前年を上回る結果となりました。さらに、勝馬投票券の発売金(海外競馬分を含む)についても、3兆1,172億円余(対前年比:103.9%)となり、10年連続で前年実績を上回りました。

一方で、2月には、中央競馬の厩舎関係者が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により特に大きな影響を受けた事業者に対して給付される持続化給付金について、その趣旨・目的を正しく理解せず同給付金の申請及び受給をしていたことが明らかとなりました。また、令和2年7月に発生した規制薬物の陽性事案について、その後の調査で主催者としての過失が判明したことから、令和3年3月に調教師への処分を取り消すこととなりました。こうした事案については、お客様及び関係者の皆様に大変なご迷惑をおかけしたことをお詫びするとともに、同様の事案の再発防止に努めてまいります。

こうしたことも踏まえつつ、JRAは、令和3事業年度の事業活動の結果を的確にフィードバックし、競馬の魅力を更に向上させるとともに、お客様の獲得と定着化を図るため、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底しつつ様々な施策を実施してまいります。また、JRAさらには競馬産業全体が安定的かつ持続的に発展していくため、今後ともJRAを取り巻く環境を意識しつつ、競馬の社会的基盤を強化してまいります。

<目次>

- 新型コロナウイルス感染症に係る諸施策の概要
 - 1. 競馬場・ウインズ等の営業体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P3
 - 2. 競走の実施に係る対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P4
 - 3. 新型コロナウイルス感染症対策への支援・・・・・・・・・・・・ P4

- 令和3事業年度事業計画に掲げた項目の実施概況
 - 1. 魅力ある競走の提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P5
 - 2. 競走馬の資質・能力の向上等への取組み・・・・・・・・・・・・ P6
 - 3. 競馬の公正確保の徹底・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P8
 - 4. 競馬への参加促進及び販売促進・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P9
 - 5. ホスピタリティの向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P14
 - 6. 馬事振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P15
 - 7. 持続的な発展に向けた取組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P16

○ 新型コロナウイルス感染症に係る諸施策の概要

JRAでは、昨年に引き続き、「新型コロナウイルス感染症に係る安全な競馬開催のための基本的な考え方」に基づき、政府や地方自治体の方針、時々刻々と変化する社会情勢等を踏まえながら、JRA新型コロナウイルス感染症対策本部会議での議論・決定を経て、種々の感染対策等を講じてまいりました。その概要は以下のとおりです。

1. 競馬場・ウインズ等の営業体制

競馬場・ウインズ等では、以下のとおり通常とは異なる体制にて発売・払戻を実施しました。

(1) 開催競馬場

- 1月9日（土）から3月28日（日）まで、中山・東京競馬場においてお客様の入場をお断りして競馬開催（いわゆる「無観客競馬」）を実施
- 1月16日（土）から3月7日（日）まで、中京・阪神・小倉競馬場において無観客競馬を実施
- 4月25日（日）から5月2日（日）まで、阪神競馬場において無観客競馬を実施
- 4月25日（日）から5月9日（日）まで、東京競馬場において無観客競馬を実施
- ※ その他の期間においても、お客様の入場を制限して競馬開催を実施

(2) ウインズ等

- 1月9日（土）から3月21日（日）まで、首都圏のウインズ等の営業を休止
- 1月16日（土）から2月28日（日）まで、関西圏・愛知県・福岡県のウインズ等の営業を休止
- 4月25日（日）から6月20日（日）まで、首都圏及び関西圏のウインズ等の営業を休止
- 5月16日（日）から6月20日（日）まで、北海道及び広島県のウインズ等の営業を休止
- 5月22日（土）から6月20日（日）まで、愛知県及び福岡県のウインズ等の営業を休止
- ※ その他の期間においても、発売時間の制限や映像の提供休止等の制限付きでウインズ等を営業

(3) 勝馬投票券払戻有効期限の延長

- 令和2年11月7日（土）から令和3年1月11日（祝・月）まで及び令和3年2月27日（土）から5月16日（日）までの間に発売した勝馬投票券の払戻有効期限を一律に8月28日（土）に延長

2. 競走の実施に係る対応（交流競走における騎手の騎乗制限）

1月5日（火）から11月19日（金）まで、地方競馬との交流競走において、以下のとおり騎手の騎乗制限を実施しました。

(1) 地方競馬所属騎手が騎乗できる中央競馬で実施する交流競走

- 重賞競走（地方競馬所属馬のみ）
- G I ステップ競走（地方競馬所属馬のみ）

(2) J R A 所属騎手が騎乗できる地方競馬で実施する交流競走

- ダート交流重賞競走（J R A 所属馬のみ）
- J R A 所属騎手が招待された騎手招待競走

3. 新型コロナウイルス感染症対策への支援

中央競馬サークルでは皆様のご理解をいただきながら、以下のとおり新型コロナウイルス感染症対策への支援を行いました。

(1) J R A からの支援

- 医療関係機関への支援（日本赤十字社）：10億円
- 社会福祉事業への支援（(福)中央共同募金会）：10億円
- 競馬場、トレーニング・センター及びウインズ等の所在する市区町村への支援
：13.6億円
- 競馬場、トレーニング・センター、育成牧場、馬事公苑及び競馬学校の近隣医療機関への備品寄贈：2.5億円

(2) 中央競馬サークルからの支援

- 日本馬主協会連合会からの支援
- (一社)日本調教師会からの支援
- 日本騎手クラブからの支援

○ 令和3事業年度事業計画に掲げた項目の実施概況

1. 魅力ある競走の提供

(1) 開催計画

1月5日（火）から12月28日（火）の間に、延べ288日（36回）の競馬を全国9か所の競馬場において開催しました。

また、より多くのお客様にご参加いただくため、1月11日（祝・月）及び9月20日（祝・月）に競馬を開催しました。

なお、2月13日（土）に発生した福島県沖地震の影響により、当初の開催計画を一部変更しました。

(2) 重賞競走の改善

① 東京スポーツ杯2歳ステークスのGⅡ昇格

ホープフルステークス（GⅠ）の前哨戦としての位置付けを明確にし、本番の更なる盛り上げを図る観点から、東京スポーツ杯2歳ステークスをGⅢからGⅡに昇格しました。

② 葵ステークスのGⅢ格付け

日本グレード格付管理委員会にGⅢ格付けを申請した葵ステークスについては、同委員会による審査の結果、格付けの承認を得られなかったため、引き続き重賞競走として実施しました。

③ 開催日割の変更に伴う実施日及び実施場等の変更

京都競馬場整備工事や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、福島県沖地震の影響等を踏まえた開催日割の変更及び3日開催の実施時期の変更等に伴い、一部重賞競走の実施日及び実施場等を変更しました。

(3) 国内における国際競走への国内外の一流馬の参加促進

ジャパンカップ（GⅠ）に3頭の外国馬（アイルランド2頭及びフランス1頭）が出走しました。

また、同競走の開催週に新たに国際競走を4競走編成するとともに、東京競馬場における国際厩舎の新設に着手する等、一流の外国調教馬の参加を促進するための取り組みを行いました。

(4) 国際的な交流の推進

延べ 49 頭の J R A 所属馬がサウジアラビア、アラブ首長国連邦、香港、アメリカ、フランスの競走に出走し、うち 8 競走で優勝しました。

また、「2021 年度ロンジンベストホースランキング」において、レーティング 115 以上の 279 頭のうち、日本調教馬は 42 頭が掲載されました。

2. 競走馬の資質・能力の向上等への取組み

(1) 競走馬の育成を通じた取組み

J R A が生産した馬（J R A ホームブリード）27 頭（当歳 9 頭、1 歳 9 頭及び 2 歳 9 頭）及び 1 歳市場で購入した馬 149 頭（令和 2 年購買の 2 歳馬 75 頭及び令和 3 年購買の 1 歳馬 74 頭）を、日高・宮崎の育成牧場において育成しました。

また、育成した競走馬（J R A 育成馬）を売却する J R A ブリーズアップセールを 4 月に会場及びオンラインによるハイブリッド方式で開催し、上場した 2 歳馬 73 頭全馬を売却しました。

(2) 生産育成基盤の強化

強い馬づくりを推進し、競馬の国際交流の進展に対応し得る生産育成基盤の強化を図るため、諸団体が実施する軽種馬生産関連事業への助成等の協力を行いました。

(3) 競走馬の保健衛生対策

競走馬総合研究所等において、スポーツ科学、スポーツ障害、生産育成及び伝染病対応に関する研究を行いました。

また、10 月に「第 49 回生産地における軽種馬の疾病に関するシンポジウム」、11 月に「第 63 回競走馬に関する調査研究発表会」を開催し、それらの研究成果の普及に努めました。

(4) 競走馬の事故防止対策

競走時及び調教時における競走馬の事故（骨折等）の発生状況を随時調査・分析するとともに、厩舎関係者への啓発活動や調教施設及び馬場の保全管理等、事故の減少を目的とした各種対策を講じました。

また、事故防止に資する調査研究として、「蟻洞の発生状況調査」を実施しました。

(5) 競走馬の暑熱対策

暑熱対策として、装鞍所や下見所のミストの増強や馬体冷却用シャワーの設置等、競馬場の施設整備を行うとともに、夏季において、装鞍所集合時間の変更や下見所の周回時間短縮等の取組みを行いました。

また、競走馬の熱中症予防に資する調査研究を実施し、それらの成果を厩舎関係者に普及しました。

(6) 防疫体制の整備

入厩検疫や定期検査、予防接種、衛生作業等の防疫業務を着実に実施するとともに、海外の伝染病の発生状況等の情報を収集・周知することで、適切な防疫体制の整備を行いました。また、適切な飼養管理法を周知することにより、ワクチン接種率や衛生環境の改善を図り、国内の防疫体制を強化しました。

(7) 競走関連施設の充実

引き続き、美浦トレーニング・センター坂路馬場改造及び南Eコース新設工事を実施しました。(令和5年12月竣工予定)

また、4月に東京競馬場馬場内への国際厩舎の新設工事に着手しました。(令和4年5月竣工予定)

(8) 馬主活動の促進

各種媒体での馬主活動のPRや馬主登録ガイドの配布等により馬主の新規開拓を進めるとともに、G I競走出走馬主等への記念品贈呈や永年馬主表彰の実施、馬主向けの情報提供の充実等により馬主活動の促進に向けた取組みを行いました。

(9) 厩舎運営の活性化

トレーニング・センターから競馬場への競走馬の輸送方法の見直しや、厩舎におけるウォーキングマシン導入の支援等により、厩舎従業員の労働環境の改善や業務の効率化等、厩舎運営の総合的な改善に取り組みました。

(10) 厩舎関係者の養成等

① 騎手及び厩務員の養成

競馬学校の騎手課程において、2月に8名（37期）が卒業し、3月1日付で騎手免許を取得しました。また、厩務員課程において、55名が卒業しました。

また、将来的な少子化を踏まえた人材確保に向け、騎手課程入学試験の応募条件の見直し（視力条件の緩和）を行いました。

② 若手騎手の育成

新規騎手免許取得者や見習騎手に対して、技術及び知識の習得・向上を図るため、各種研修等を実施しました。また、中央・地方所属の見習騎手による「ヤングジョッキーズシリーズ」を実施しました。

③ 競馬に携わる職業への興味喚起と希望者の拡大

各事業所におけるスポーツ少年団の活動等を通じて、競馬に携わる職業への興味喚起と希望者の拡大を図りました。

④ 厩舎関係者への研修等

厩舎関係者に対して、暑熱対策の講習会や競走馬総合研究所によるスポーツ科学セミナーをWEB形式で実施しました。

3. 競馬の公正確保の徹底

(1) 登録・免許業務及び制裁等の厳正な実施

馬主・競走馬・服色の登録及び調教師・騎手に対する免許業務について、法令に従い、公正審査委員の意見を聴いたうえで、厳正に実施しました。

また、競走に関する騎手への制裁として、騎乗停止23件、過怠金377件、戒告365件を行いました。

(2) 競馬に対する信頼の確保に向けた取組み

① 薬物の不正使用事案等の未然防止

出馬投票後に規制薬物の投与が判明した事案が1件、出走後に規制薬物の投与が判明した事案（検体結果は陰性）が1件、それぞれ発生しました。

また、令和2年7月に発生した規制薬物陽性事案について、その後の調査で主催者としての過失が判明したことから、令和3年3月に調教師の処分を取消しを行いました。

さらに、令和2年11月に発生した禁止薬物陽性事案について、警察の指導の下で各種検査及び調査を継続的に行い、令和3年6月に処分を決定しました。

なお、薬物の使用については、厩舎関係者への指導・研修を実施するとともに、禁止薬物等の飼料への混入防止のため、販売業者への講習会や薬物検査の受検状況の把握、配合飼料製造工場の査察を行いました。

また、薬物事案発生時の対応手順について改めて確認・徹底を行いました。

② 反社会的勢力排除への取組み

関係機関と連携し、お客様の安全確保及び競馬場・ウインズ等内外の秩序維持に努めました。

③ 自主警備体制の整備

厩舎エリアへの防犯カメラの設置を進めるとともに、通門管理や巡回等を徹底することにより、お客様エリア等の施設内における安全確保や違法行為の防止に努めました。

(3) 審判関係業務の改善等

裁決事項に関し、海外競馬主要国や地方競馬全国協会との意見交換を適宜実施しました。

また、JRAホームページで裁決レポート及びパトロールビデオを公開しました。

4. 競馬への参加促進及び販売促進

(1) プロモーションの展開

① 広告プロモーションの展開

主に競馬未経験層をターゲットとして、競馬場の楽しい雰囲気アピールするテレビCM「HOT HOLIDAYS!」を前年に引き続き6名（松坂桃李、柳楽優弥、高畑光希、土屋太鳳、中川大志、葵わかな）のキャストで展開しました。

また、主に現役顧客層及び競馬休止層をターゲットとして、競馬そのものの魅力を訴求するテレビCM「夢の第11レース」「夢のvs.（日本ダービー編）」「あしたのために競馬はある」を放映しました。なお、「あしたのために競馬はある」については、JRAの社会貢献や新型コロナウイルス感染症対策への支援をアピールした「社会活動篇」も放映しました。

② G I 競走等のプロモーション

日本ダービー・有馬記念を中心に、テレビ、新聞・雑誌、WEB等各種メディアを通じてG I 競走の開催告知を行いました。

③ 海外競馬のプロモーション

J R Aで発売する海外競馬について、出走馬データや遠征馬の近況等の情報をお客様へ迅速に提供するとともに、グリーンチャンネル（ノースクランブル放送）及びラジオN I K K E Iにおいて、全ての発売対象レースを放送しました。また、ドバイワールドカップと凱旋門賞については、地上波での中継を実施しました。

また、お客様の注目度の高い「ドバイ諸競走」「凱旋門賞」「香港国際競走」については、新聞及びWEBでのプロモーションを展開しました。

④ その他WEBサイトの展開

競馬未経験層をターゲットとした競馬エンターテイメントサイト「U m a b i」を前年に引き続き運用しました。また、幅広い層に人気のある各種コンテンツ（「桃太郎電鉄」「マツケンサンバ」等）とコラボレーションした特設サイトを開設し、競馬への興味喚起を図りました。更にテレビCM出演キャストを活用し、ゲーム等の娯楽的要素を取り入れたSNSキャンペーンを日本ダービー・ジャパンカップ・有馬記念等で実施しました。

また、「J R A公式F a c e b o o k」や「J R A公式I n s t a g r a m」等のSNSを活用し、中央競馬の話題の拡散を行いました。

さらに、「UMA J Oサイト」等を通じて、UMA J Oの認知度拡大を図るとともに、女性の競馬への接触機会を創出しました。

(2) 広報活動の展開

① 競馬中継の安定的な提供

祝日・平日開催も含めてテレビ・ラジオによる競馬中継の放送枠を安定的に確保しました。特にBSテレビ放送においては、7月以降、BSグリーンチャンネルの中継番組前半（9時～13時）をノースクランブル（無料）放送としたことにより、終日無料で競馬中継を提供できる体制を整えました。

② パブリシティ活動の充実

J R Aの認知度向上や競馬に関する話題作りを図るため、年間を通じてミニ番組の提供を行いました。また、春秋のG Iシーズンの盛り上げを図るため、バラエティ番組・スポーツ番組及び情報番組におけるパブリシティやミニ番組の放送等を行

いました。

(3) 競馬場・ウインズ等の活性化

新型コロナウイルス感染症の影響により、競馬場へのお客様の入場制限やウインズ等における発売レースや営業時間の制限等を実施する時期もありましたが、新型コロナウイルス感染症の状況や社会情勢を踏まえ、各種制限の緩和に向けた取組みを行いました。

また、競馬場における全指定席のネット予約化やスマートシートの拡充、パークウインズ及びエクセルにおける指定席のネット予約化等を実施しました。

(4) 勝馬投票の利便性の向上

UMACA投票について、ライトウインズ阿見及びライトウインズりんくうタウンを除くすべての事業所に導入しました。また、UMACA投票会員に新たに18,250名のおお客様にご登録いただき、令和3年末までに会員数は168,596名となりました。

「スマッピー投票」について、秋に利用促進キャンペーンを実施し、更なる普及と利用拡大を図りました。

(5) 払戻金施策

① 払戻金上乘せ施策

特定日の指定した競走・投票法において、通常の払戻金に売得金の5%相当額を上乘せする「JRAプレミアム」について、馬連を対象とした「金杯馬連」、「春の3歳重賞+リステッド馬連」、「ダービーデー馬連」、「有馬記念デー馬連」、単勝を対象とした「夏の2歳単勝」、「秋の2歳単勝」を実施し、計710競走において3,362,389,360円の上乗せを行いました。

また、すべての競走・投票法において、通常の払戻金が100円元返しとなる場合に、売得金の範囲内で、払戻金に10円を上乘せする「JRAプラス10」について、計580件で3,323,939,810円の上乗せを行いました。

② 払戻率の設定

9月20日（祝・月）（JRAアニバーサリー当日）及び12月28日（火）（ホープフルステークス当日）の全ての競走、全ての投票法を対象に、払戻率を80%に設定する「JRAスーパープレミアム」を実施しました。

(6) 電話・インターネット投票会員の加入促進及び会員向け施策の充実

① 電話・インターネット投票会員の加入促進

電話・インターネット投票会員に新たに 971,027 名のおお客様にご登録いただき、令和 3 年中央競馬終了時点で会員数は 5,606,784 名（対前年比 543,761 名増）となりました。

② サポート体制の充実

電話・インターネット投票に関する様々な問合せに的確にお答えするため、P A T サービスセンターにおいて、問合せ内容に応じた「電話振り分け機能」の追加や、「F A Q システム」の導入、S M S の活用等により、お問合せ体制の整備を行いました。また、お客様からのお問合せが多いと思われる項目について、ホームページに F A Q を掲載する等の対応を行いました。

③ 電話・インターネット投票会員向けサービスの充実

「C l u b J R A - N e t」の登録方法の改善や「C l u b J R A - N e t 通信」の送付、年間を通じた各種キャンペーンを実施し、令和 3 年末までに C l u b J R A - N e t の会員数は約 227 万人（前年比 108.2%）となりました。

④ 電話・インターネット投票の利便性の向上

J R A ダイレクトについて、「1 ヶ月の利用限度額の引上げ」及び「1 日あたりの投票回数制限の撤廃」を行いました。また、スマートフォンからも勝馬投票券を購入できるよう対応しました。

また、高齢者等のお客様にとってより勝馬投票券を購入しやすいツール等の導入に向け、「音声技術」「画像認識技術」を利用した電話・インターネット投票技術の調査研究を開始しました。

(7) J R A アニバーサリーの実施

日頃から中央競馬をご愛顧いただいているお客様に感謝の意を表するとともに、J R A のこれまでの歴史を振り返る日として、9 月 20 日（祝・月）を「J R A アニバーサリー」と題し、当日の全競走・全投票法の払戻率を全て 80% に設定する「J R A スーパープレミアム」や W E B を活用したイベント等を実施しました。

(8) 販売ネットワークの拡充

4 月に U M A C A 投票専用の発売施設「エクセル茨城境」を開設しました。また、J - P L A C E 具において、新たに中央競馬の勝馬投票券の発売を開始しました。

(9) お客様への情報提供の充実

① レース映像の充実

G I 競走当日を中心に、引き続き車載カメラやヴァーチャルカメラ、スーパースローカメラ等の特殊カメラを増設し、レース映像を制作・放映しました。

また、競馬場やウインズ等の館内モニターについて、札幌競馬場、函館競馬場、中京競馬場及び 14 のウインズにおいてより大きな画面サイズの高精細モニターに更新しました。

② 自動タイム計測システムの導入

美浦及び栗東トレーニング・センターのウッドチップコースに、自動タイム計測システムを導入しました。

③ JRAホームページの充実

引退騎手・引退調教師の紹介ページや新人騎手紹介ページ、ブリーダーズカップ優勝記念ページ等、新たなコンテンツを制作するとともに、海外馬券発売時に特設ページを開設し、海外競馬に参加するために必要な出走馬やレース等に関する情報の提供を行いました。

(10) お客様関連施設の充実

① 京都競馬場整備工事

令和 2 年 11 月に着工した京都競馬場整備工事については、引き続き「グランドスワン」の改築をはじめ、馬場の路盤更新や厩舎の改築等の工事を行いました。(令和 5 年 3 月竣工予定)

② 中山競馬場スタンドリフレッシュ工事

平成 30 年 11 月に着工した中山競馬場スタンドリフレッシュ工事については、令和 3 年 11 月に竣工しました。

③ ウインズ札幌 A 館改築工事

令和 2 年 1 月に着工したウインズ札幌 A 館の改築工事については、令和 3 年 3 月に竣工し、4 月にオープンしました。

④ 各種映像装置の更新

東京・小倉競馬場のターフビジョン及び札幌・函館・中山競馬場のパドックに設置されている屋外表示装置の更新に着手しました。(中山競馬場は令和 3 年 8 月に竣工)

⑤ その他

令和2年12月に着工した阪神競馬場のスタンド整備工事を進めました。また、令和2年10月に着工したウインズ立川B館の改修工事については、令和3年12月に竣工しました。

5. ホスピタリティの向上

(1) 接客体制の充実

① 接客対応の改善

オンラインを活用してスタッフの研修を実施するとともに、各種教材等の研修ツールの整備を進める等、接客対応の改善を図りました。

② インフォメーション機能の充実等

日本ダービー及び有馬記念週に一部ウインズ及びパークウインズにおいて「ビギナーズカウンター」を設置しました。また、競馬場に来場できないお客様を対象に、競馬の楽しみ方を知っていただくためのオンライン形式のセミナーを実施しました。

(日本ダービー、宝塚記念、スプリンターズステークス、天皇賞(秋)、チャンピオンズカップ、有馬記念週に実施。)

(2) 観戦環境等の向上

検温や手指の消毒、施設内の換気をはじめとした新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底しました。

また、一部事業所において、統一基準に基づく館内サインの改善に取り組みました。

さらに、受動喫煙防止や喫煙所における感染対策のための取組みや、観戦マナー向上のためのターフビジョンやレーシングプログラム、ポスター等による啓発活動、場内装飾による環境美化等を実施しました。

6. 馬事振興

(1) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への協力

① 競技運営に関する支援・協力

J R A馬事公苑を東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会馬術競技の会場として（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に貸与しました。

また、大会期間中は、馬術競技の運営に協力するため計 121 名（延べ 1,651 名）の職員を派遣したほか、近代五種の馬術競技についても競技馬の貸与や職員の派遣等の協力を行いました。

② J R A馬事公苑の整備

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会後に、日本の馬事振興の拠点に相応しい施設とするため、J R A馬事公苑の整備工事を実施しました。

(2) 乗馬の普及

各事業所において、スポーツ少年団や学生を対象とする乗馬指導を新型コロナウイルス感染症の感染状況等を踏まえつつ実施しました。なお、競馬開催時における体験乗馬や馬車試乗会等の馬事イベントについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から実施を取り止めました。

(3) 引退競走馬のセカンドキャリアの促進支援

11月に三木ホースランドパークにおいて、元競走馬と内国産乗用馬を対象とした「ジヤパンブリーディングホースショー」を開催しました。また、J R A馬事公苑（宇都宮）等で引退競走馬をより円滑に乗用馬等へ転用するための調教（リトレーニング）技術の研究・検証に取り組みました。

さらに、競馬サークル関係者による「引退競走馬に関する検討委員会」を 3 回開催し、引退競走馬のセカンドキャリア促進を中心とした諸課題への検討を進めるとともに、障害者乗馬やホースセラピーを実施する各団体の活動を支援しました。

(4) 馬術の振興

各種馬術大会の開催を支援するとともに、馬術の振興に関連する諸団体が行う事業に対して助成等の協力を行いました。

また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けてテレビCMやWE

B、街頭展示等の各種馬術プロモーションを展開するとともに、同競技大会が無観客開催となったことを受け、グリーンチャンネルにおいて馬術競技の無料放送を実施しました。

(5) 馬事文化の発展への寄与

「馬の博物館」において5件、「競馬博物館」において7件の展示を実施しました。また、馬事文化賞に「馬のこころ 脳科学者が解説するコミュニケーションガイド」（著者：ジャネット・L・ジョーンズ氏、訳者：尼丁千津子氏、編集協力：持田裕之氏、出版：パンローリング株式会社）を、馬事文化賞特別賞に「馬と古代社会」（佐々木虔一氏、川尻秋生氏、黒濟和彦氏）を選出しました。

さらに、令和2年9月以来閉鎖していたGate J.（東京）を、令和3年11月に移転のうえ再開しました。

7. 持続的な発展に向けた取組み

(1) 社会貢献活動

① 地域社会との連携・協調

各事業所において、防災計画やマニュアルの整備を行うとともに、大規模災害の発生に備え、防災備蓄品の配備・管理を適切に行いました。

また、7月に東京競馬場において東京2020オリンピック大会聖火リレーセレブレーションが開催されました。

② 事業所周辺の整備に関する取組み

競馬開催日に、競馬場やウインズ周辺地域において、警備ポストを配置する等の交通対策を実施しました。また、競馬場・ウインズ等が所在する41の自治体に対して、総額53.8億円の環境整備事業費を交付し、事業所周辺の環境整備事業を実施しました。

③ 畜産振興への支援（畜産振興事業）

畜産分野に係る喫緊の対応が必要な事業や安全・安心な畜産物の供給に関わる事業、馬の防疫体制の整備、激甚災害の被災地に対する事業支援等、畜産の振興に資するための事業に関し、特別振興資金を活用して交付金を交付しました。（別表12）

④ 受動喫煙の防止対策

令和2年4月に施行された改正健康増進法を踏まえ、喫煙マナーに関するポスターの掲示等の広報・告知活動を実施しました。

(2) 環境への取組み

① 資源循環型社会の構築への貢献

競馬事業に伴い発生する排出物の総量は年間49,181t（対前年比102.9%）となりました。また、競馬開催に伴う排出物や事務エリアで発生する排出物のリサイクル率は88.8%（対前年比0.2ポイント減）となりました。

② 地球温暖化防止

LED照明器具等の省エネ機器の導入や、太陽光発電システム・バイオマス燃焼発電システムの運用により、事業活動に伴う温室効果ガス排出量の抑制に努め、CO2総排出量は年間78,247t-CO2/年（対前年比106.5%）となりました。

③ 環境への取組みを通じた地域社会との調和

競馬開催日に、競馬場やウインズ等において事業所周辺清掃や周辺道路の混雑緩和対策を実施しました。

④ 環境マネジメントの推進

「環境委員会」を中心に、環境への取組みを着実に推進する体制を構築し、環境関連法令の順守、廃棄物の適正処理等の環境コミュニケーションを適切に実施しました。

(3) 組織の運営等に関する取組み

① 法令順守と透明性の確保

i) コンプライアンスに関すること

役職員に対する研修等を通じて「コンプライアンス行動指針」の周知徹底に努めるとともに、コンプライアンス監査等を実施し、コンプライアンス体制の確認・点検及びコンプライアンス意識の向上を図りました。

ii) 個人情報、法人文書等の管理に関すること

「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」「公文書等の管理に関する法律」の規定に基づき、JRAの保有する個人情報、法人文書等を適切に管理しました。また、各種研修・会議において啓発活動を実施するとともに、コンプ

ライアンス監査等を通じ管理体制を強化しました。

iii) 情報公開に関すること

「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」等の規定に基づき、JRAの保有する法人文書の開示請求 31 件について、適切かつ迅速に対応しました。また、JRAホームページ等を活用し、JRAの経営に関する情報等を公開しました。

iv) 契約・入札等に関すること

「入札監視委員会」を 4 回開催し、契約・入札の更なる適正化に向けた点検を行いました。また、入札公告等契約に関する情報を JRA ホームページで公開しました。

② 危機管理体制の強化 ～新型コロナウイルス感染症に係る取組み等～

新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業継続に必要な計画を策定するとともに、その計画に則り、競馬の着実な実施に向け各種施策を着実に実施しました。また、併せて、厩舎関係者や役職員等、競馬サークル全体における感染対策を徹底しました。

③ 情報セキュリティの確保

「情報セキュリティ委員会」で定めた「対策推進計画」に基づき、情報セキュリティに関する教育、情報セキュリティに関する自己点検及びプログラム開発における品質向上に向けた取組みを行いました。また、外部機関による情報セキュリティ点検を行うとともに、役職員に対する e ラーニング研修や標的型攻撃メール訓練等を実施しました。

④ コンピュータ・システムの更新及び全体最適化

トータリゼータシステムをはじめとした各種システムについて、更新及び機能改善・強化を実施しました。また、一層のコンピュータ・システムの全体最適化を推進するため、将来的な更新計画の策定に向けて調査研究等を実施しました。

⑤ 国際協調及び国際協力の充実

国際競馬統括機関連盟（IFHA）の常任理事国（10 月からは副会長国）として、また、アジア競馬連盟（ARF）の副会長国として、種々の世界規模の課題について有効な方策の検討や各国・地域間の意見調整を行い、外国競馬統括機関との国際協調の維持及び日本競馬の国際的地位の向上に努めました。

また、アメリカ、カナダ、イギリス、アイルランド、ドイツ、アルゼンチン、ブラジル、ニュージーランド、オーストラリア、韓国、香港及びサウジアラビアとの交

換競走を実施しました。さらに、アジアウィーク（マレーシア、シンガポール、タイ、インド、フィリピン及びマカオとの交換競走）を7月に小倉競馬場において実施しました。

⑥ 次世代育成

馬に関する講義や馬とのふれあいを行う出張授業を小学校2校において実施するとともに、キッザニア甲子園に引き続き「ホースパーク」パビリオンを出展しました。

また、北海道大学において学生向けに競馬に関する講義を行ったほか、獣医学生を対象とする実習インターンシップを競走馬総合研究所において受け入れるとともに、競走馬の獣医師を目指す学生に対する奨学金事業を実施しました。

なお、「ジョッキーズ」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、予選の一部及び10月に予定していた決勝大会について開催を中止しました。

⑦ ギャンブル等依存症対策

「ギャンブル等依存症対策委員会」で定めた「ギャンブル等依存症対策実施計画」に基づき、5月のギャンブル等依存症問題啓発週間におけるお客様への注意喚起や競馬場・ウインズ等への入場制限、電話・インターネット投票の利用停止や購入上限額の設定等の対策を引き続き実施しました。

また、3月に全国公営競技施行者連絡協議会により公開したセルフチェックツールについて、JRAホームページ等で周知を行いました。

⑧ 勝馬投票に関わる違法行為等の防止対策

i) ノミ行為、違法インターネット賭事、悪質な競馬情報提供会社による被害等の防止対策

ノミ行為やインターネット賭事等の違法行為や、悪質な競馬情報提供会社について、JRAホームページやレーシングプログラム等の各種媒体を通じてお客様への注意喚起を行いました。

ii) 未成年者の勝馬投票券購入防止対策

未成年者が勝馬投票券を購入することのないよう、レーシングプログラムやポスター等で周知を図るとともに、必要に応じてウインズへの入場時や、勝馬投票権購入時の年齢確認を実施する等の対策を講じました。

⑨ その他の取組み

i) 業務運営の効率化

本部事務所について、8月に、機能的なフロアレイアウトを備えた港区西新橋の自己所有物件に移転しました。併せて、業務用スマートフォンや会議室予約システムを導入する等、業務運営の効率化を進めました。

ii) 人材育成の充実

JRA職員について、個々の更なる能力向上や組織の活性化のため「階層別研修」や「専門研修」、「一般研修」を実施しました。また、関連団体職員について、JRAについての知識と理解を深めるための研修を実施しました。

iii) 経営資源の有効活用

インターネット投票システムを活用した地方競馬の受託発売を延べ237日実施し、発売金は約1,535億円となりました。

また、ジャパンカップにおいてロンジン社とパートナーシップを結びました。

<別表目次>

- 別表 1 (開催競馬場別開催実績・競走成績) P 22
- 別表 2 (令和 3 事業年度の各種実績) P 23
- 別表 3 (開催回数の推移) P 24
- 別表 4 (開催日数及び競走回数の推移) P 24
- 別表 5 (出走頭数の推移) P 24
- 別表 6 (お客様総数及び開催競馬場入場人員の推移) P 25
- 別表 7 (発売金の推移) P 25
- 別表 8 (電話・インターネット投票会員数の推移) P 26
- 別表 9 (投票法毎の発売金の構成比の推移) P 26
- 別表 10 (馬主・調教師・騎手・調教助手・厩務員数の推移) P 27
- 別表 11 (国際競走等の状況) P 28
- 別表 12 (特別振興事業について) P 30
- 別表 13 (J R A 賞 受賞馬及び受賞者) P 43

【別表 1】

1. 開催競馬場別開催実績

	回数	日数	競走数	出走延頭数	入場人員	発売金額
札幌	2回	14日	168競走	2,143頭	19,148名	98,689,567,700円
函館	1	12	144	1,861	13,066	105,349,457,000
福島	2	12	144	2,102	33,262	96,073,456,400
新潟	5	36	432	6,208	84,467	280,656,417,400
中山	5	42	504	7,327	98,474	578,152,986,800
東京	5	44	528	7,557	189,091	635,028,189,600
中京	6	45	540	7,279	85,602	440,681,306,800
京都	0	0	0	0	0	0
阪神	6	53	636	8,244	167,879	662,958,346,000
小倉	4	30	360	4,939	31,681	202,476,076,300
計	36	288	3,456	47,660	722,670	3,100,065,804,000

2. 競走成績

	競走回数				出走延頭数	出走実頭数	1競走平均出走頭数
	一般競走	特別競走	重賞競走	合計			
2歳	594回	40回	14回	648回	8,378頭	3,293頭	12.9頭
3歳以上	1,822	744	115	2,681	37,790	8,023	14.1
障害	109	8	10	127	1,492	485	11.7
合計	2,525	792	139	3,456	47,660	11,557	13.8

※ 平地競走と障害競走の両方に出走した馬の数は、244頭

【別表2】

◎ 令和3事業年度の各種実績

①開催回数・開催日数	36回・288日
②競走回数	3,456競走（前年実績 3,456競走）
③出走延頭数	47,660頭（前年実績 48,127頭）
④勝馬投票券の発売金	3兆1,172億9,152万0,000円（対前年比103.9%）
⑤開催競馬場の入場人員	72万2,670名（対前年比72.9%）※
⑥お客様総数	1億8,076万4,336名（対前年比106.6%）

※うち女性入場人員は12万8,791名（対前年比86.7%）。全体比17.8%。

〔発売金〕

		対前年比	構成比(前年) ※
中央競馬発売金 (内訳)	3兆1,000億6,580万4,000円	103.6%	-
開催場における自場分	123億1,955万9,000円	74.9%	0.4%(0.5%)
〃 他場分	73億7,393万2,900円	66.1%	0.2%(0.4%)
パークウインズ	226億1,958万9,600円	92.4%	0.7%(0.8%)
場外発売所	1,982億4,468万4,500円	119.9%	6.4%(5.5%)
電話・インターネット投票	2兆8,595億0,803万8,000円	103.0%	92.2%(92.7%)
海外競馬発売金	172億2,571万6,000円	222.8%	-
発売金(中央競馬+海外競馬)	3兆1,172億9,152万0,000円	103.9%	-

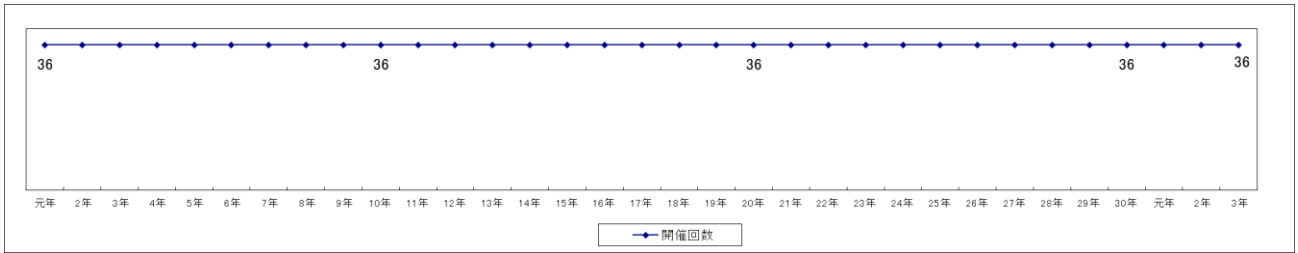
※構成比については、端数処理をしているため、合計が100%とならない場合があります。

〔お客様総数〕

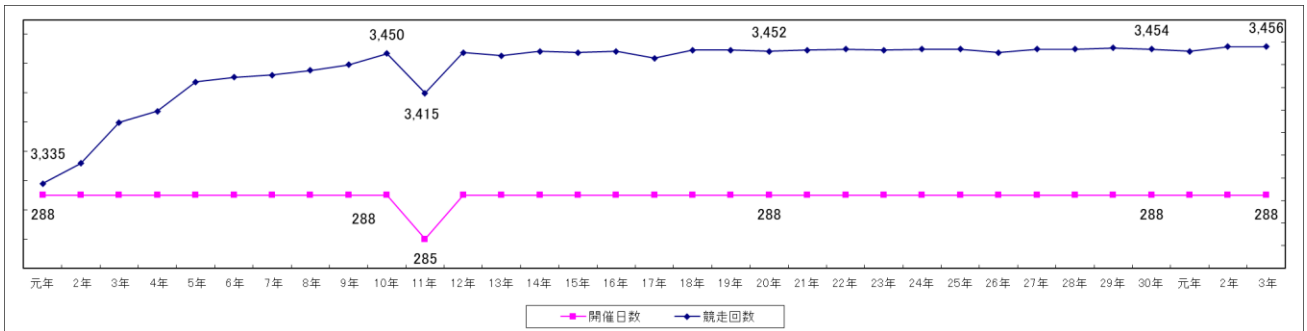
		対前年比	構成比(前年) ※
中央競馬お客様総数 (内訳)	1億7,810万8,494名	105.9%	-
開催競馬場	72万2,670名	72.9%	0.4%(0.6%)
パークウインズ	140万2,093名	102.7%	0.8%(0.8%)
場外発売所	1,554万6,739名	124.7%	8.7%(7.4%)
電話・インターネット投票	1億6,043万6,992名	104.7%	90.1%(91.2%)
海外競馬参加人員	265万5,842名	180.2%	-
お客様総数(中央競馬+海外競馬)	1億8,076万4,336名	106.6%	-

※構成比については、端数処理をしているため、合計が100%とならない場合があります。

【別表 3】開催回数の推移（平成元年以降）

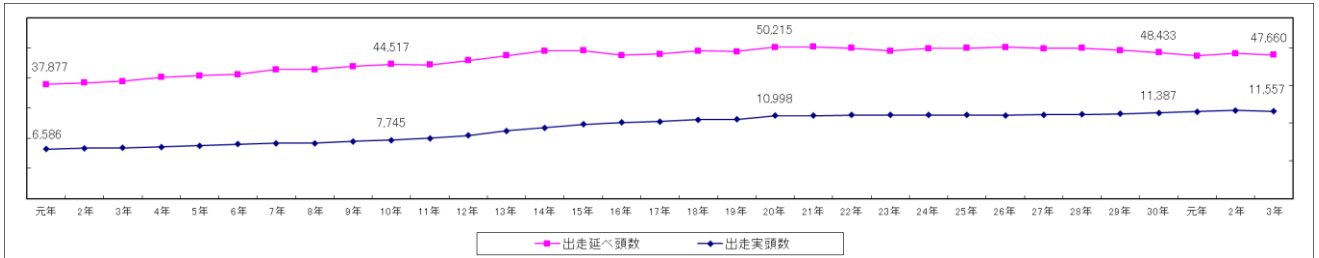


【別表 4】開催日数及び競走回数の推移（平成元年以降）

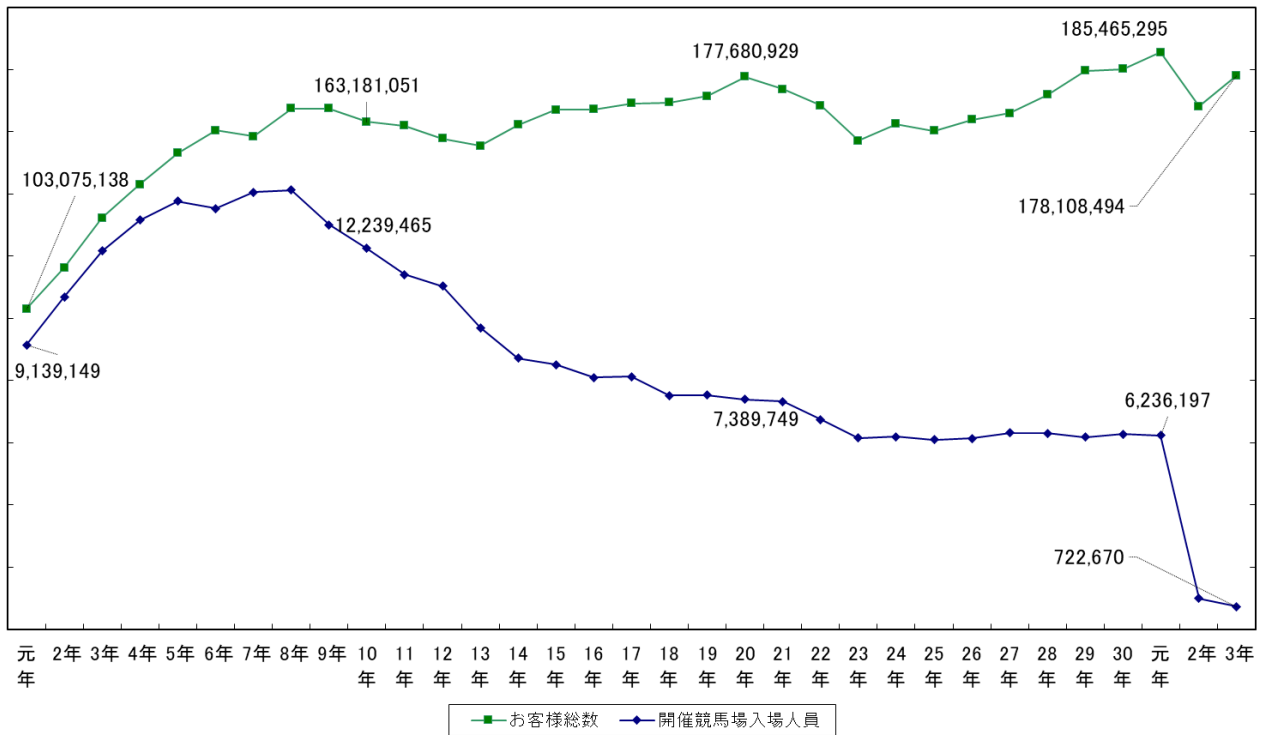


注) 平成 11 年：厩務員春闘の影響により 3 回中山第 3 日、2 回阪神第 3 日、2 回中京第 3 日を取止め

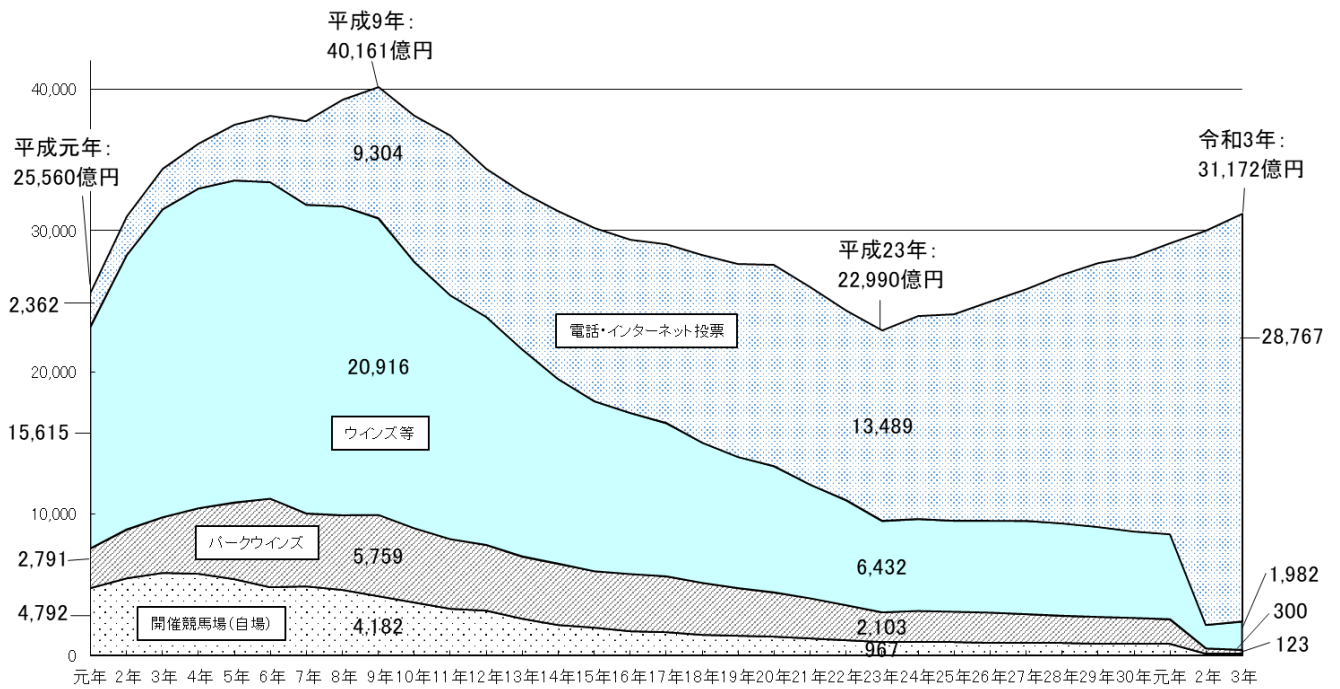
【別表 5】出走頭数の推移（平成元年以降）



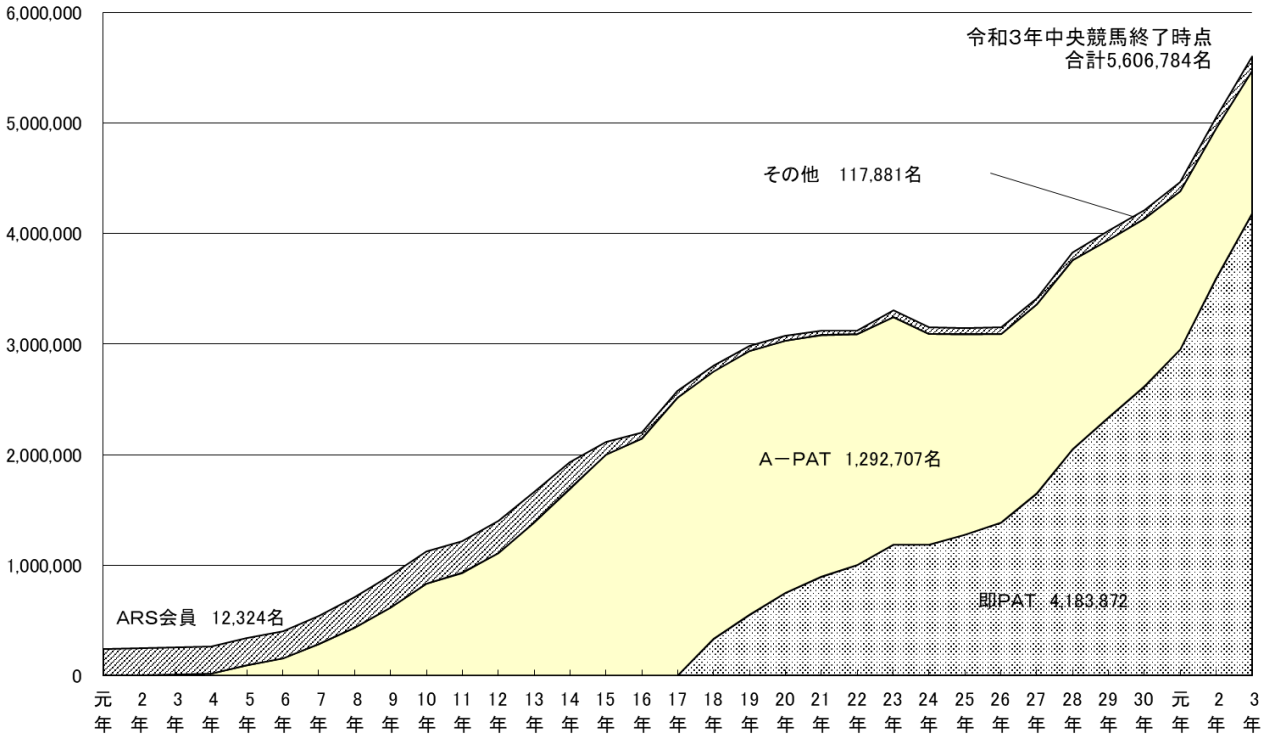
【別表 6】 お客様総数及び開催競馬場入場人員の推移



【別表 7】 発売金の推移



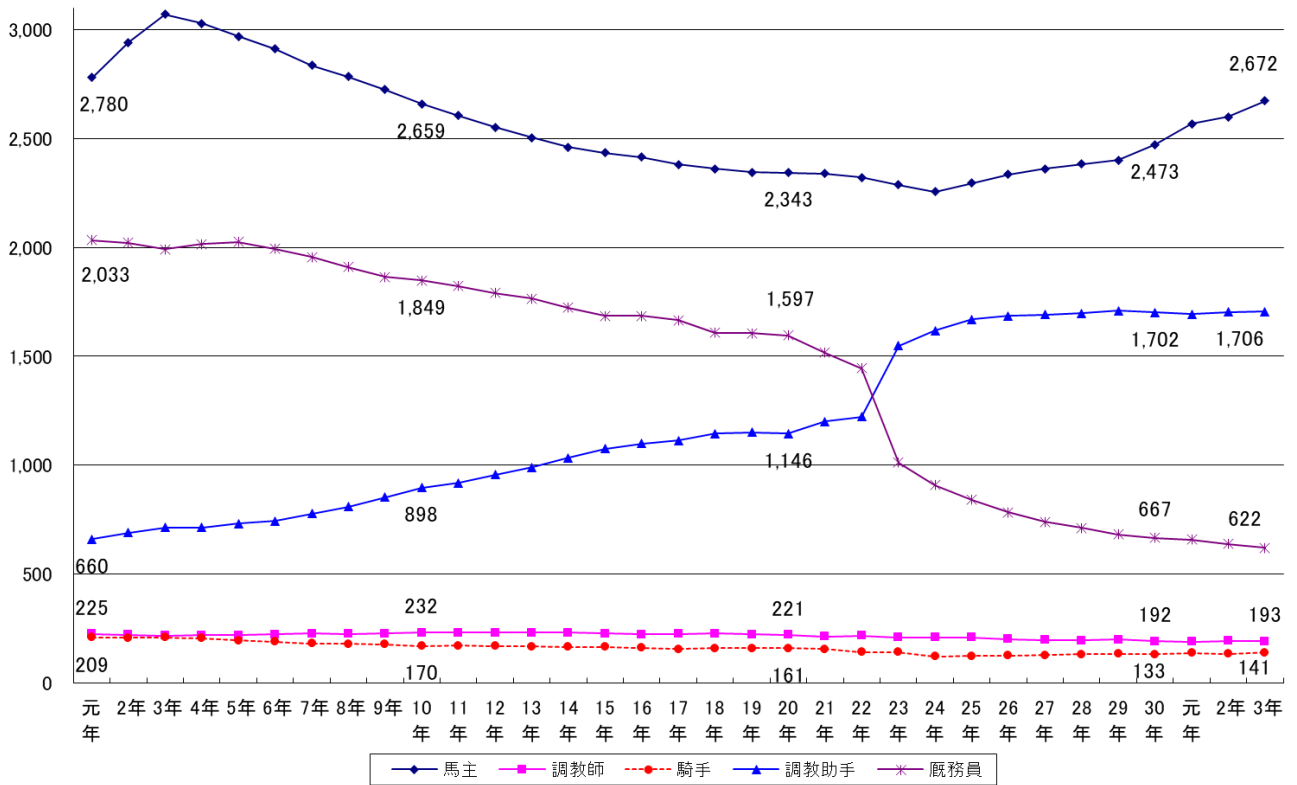
【別表8】電話・インターネット投票会員数の推移（平成元年以降）



【別表9】投票法毎の発売金の構成比（%）の推移（平成元年以降）※ 海外競馬分を除く

	単勝	複勝	枠連	馬連	ワイド	馬単	3連複	3連単	WIN5
平成元年	2.8	2.2	94.9	-	-	-	-	-	-
2年	2.8	2.2	95.0	-	-	-	-	-	-
3年	2.9	2.3	81.3	13.5	-	-	-	-	-
4年	2.7	2.3	35.4	59.6	-	-	-	-	-
5年	2.8	2.5	26.6	68.1	-	-	-	-	-
6年	2.7	2.6	22.9	71.8	-	-	-	-	-
7年	2.6	2.6	19.9	74.9	-	-	-	-	-
8年	2.6	2.6	17.8	77.0	-	-	-	-	-
9年	2.8	2.8	16.4	78.0	-	-	-	-	-
10年	3.1	2.9	15.1	78.9	-	-	-	-	-
11年	3.1	3.0	12.9	79.3	1.7	-	-	-	-
12年	3.0	2.4	10.9	70.5	13.2	-	-	-	-
13年	3.1	2.4	9.9	70.4	14.2	-	-	-	-
14年	2.8	2.4	8.3	54.7	10.8	10.9	10.1	-	-
15年	2.7	2.5	6.4	34.2	5.8	24.1	24.3	-	-
16年	2.9	2.7	5.8	28.2	4.9	22.0	25.5	8.0	-
17年	3.1	3.3	4.7	21.1	4.2	17.2	19.3	27.1	-
18年	3.4	4.0	4.8	19.6	4.4	15.7	19.4	28.7	-
19年	3.8	4.2	4.6	18.6	4.4	14.5	20.1	29.8	-
20年	3.7	5.1	4.3	17.1	4.3	12.4	19.2	33.9	-
21年	3.9	5.9	4.0	15.6	4.5	10.4	18.0	37.7	-
22年	4.2	6.4	3.8	15.1	4.8	9.8	18.7	37.3	-
23年	4.5	7.2	3.5	14.3	5.1	9.1	18.1	36.2	2.0
24年	4.7	7.6	3.6	13.9	5.4	8.7	18.2	35.8	2.1
25年	5.0	8.3	3.5	13.6	5.5	8.5	18.2	35.6	1.8
26年	5.3	8.6	3.5	14.3	6.0	7.9	18.6	34.2	1.5
27年	5.5	7.7	3.6	15.1	6.8	7.6	19.6	32.7	1.4
28年	5.6	8.1	3.4	14.5	7.2	7.2	19.9	32.8	1.3
29年	5.9	8.4	3.3	14.4	7.6	6.9	20.1	32.2	1.2
30年	6.2	8.7	3.1	14.3	8.2	6.6	20.1	31.5	1.3
令和元年	6.4	8.8	2.9	13.8	8.8	6.4	20.5	31.0	1.2
2年	6.8	9.6	2.5	13.4	9.9	6.0	21.2	29.2	1.5
3年	6.9	9.5	2.4	13.3	10.2	5.7	21.7	29.0	1.4

【別表 10】馬主・調教師・騎手・調教助手・厩務員数の推移（平成元年以降）



【別表 11】 国際競走等の状況

(1) J R A所属馬の海外遠征状況

出走月日	開催国	競走名	グレード*	馬場	距離	馬名	着順/出走頭数	騎手名	調教師名
2月20日	サウジアラビア	サウジダービー		ダート	1600m	ピンクカメハメハ	1/12	戸崎 圭太	森 秀行
		リヤドダートスプリント		ダート	1200m	コパノキッキング	1/13	W.ビュイック	村山 明
						マテラスカイ	2/13	戸崎 圭太	森 秀行
						ジャスティン	6/13	坂井 瑠星	矢作 芳人
		サウジカップ		ダート	1800m	チュウワウウィザード	9/14	戸崎 圭太	大久保 龍志
3月27日	ドバイ	ゴドルフィンマイル	G2	ダート	1600m	デュードヴァン	13/15	L.デットーリ	加藤 征弘
		UAEダービー	G2	ダート	1900m	タケルベガサス	4/14	R.ムーア	加藤 征弘
						フランスゴデイナ	6/14	J.ロザリオ	森 秀行
						ピンクカメハメハ	10/14	戸崎 圭太	森 秀行
		ドバイゴールデンシャヒーン	G1	ダート	1200m	レッドルゼル	2/13	R.ムーア	安田 隆行
						コパノキッキング	5/13	W.ビュイック	村山 明
						ジャスティン	11/13	坂井 瑠星	矢作 芳人
						マテラスカイ	12/13	戸崎 圭太	森 秀行
		ドバイターフ	G1	芝	1800m	ヴァンドギャルド	2/12	M.バルザローナ	藤原 英昭
		ドバイシーマクラシック	G1	芝	2410m	クロノジェネシス	2/9	北村 友一	斉藤 崇史
ラヴズオンリーユー	3/9					O.マーフィー	矢作 芳人		
ドバイワールドカップ	G1	ダート	2000m	チュウワウウィザード	2/12	戸崎 圭太	大久保 龍志		
4月25日	香港	チェアマンズスプリントプライズ	G1	芝	1200m	ダノンスマッシュ	6/13	J.モレイラ	安田 隆行
		クイーンエリザベス2世カップ	G1	芝	2000m	ラヴズオンリーユー	1/7	C.ホー	矢作 芳人
						グローリーヴェイズ	2/7	K.ティータン	尾関 知人
						デアリングタクト	3/7	松山 弘平	杉山 晴紀
		キセキ	4/7	C.スコフィールド	辻野 泰之				
5月15日	アメリカ	ブリークネスステークス	G1	ダート	1900m	フランスゴデイナ	7/10	J.ロザリオ	森 秀行
6月5日	アメリカ	ベルモントステークス	G1	ダート	2400m	フランスゴデイナ	8/8	R.サンタナJr.	森 秀行
9月12日	フランス	フォワ賞	G2	芝	2400m	ディーブボンド	1/6	C.デムーロ	大久保 龍志
		パン賞	G3	芝	1400m	エントシャイデン	5/10	坂井 瑠星	矢作 芳人
10月3日	フランス	凱旋門賞	G1	芝	2400m	クロノジェネシス	7/14	O.マーフィー	斉藤 崇史
						ディーブボンド	14/14	M.バルザローナ	大久保 龍志
		オペラ賞	G1	芝	2000m	イカット	13/14	O.マーフィー	斉藤 崇史
		フォレ賞	G1	芝	1400m	エントシャイデン	3/15	坂井 瑠星	矢作 芳人
11月5日	アメリカ	ブリーダーズカップジュベナイル	G1	ダート	1700m	ジャスパークレイト	10/15	福永 祐一	森 秀行
11月6日	アメリカ	ブリーダーズカップフィリー&メアターフ	G1	芝	2200m	ラヴズオンリーユー	1/12	川田 将雅	矢作 芳人
		ブリーダーズカップマイル	G1	芝	1600m	ヴァンドギャルド	12/13	福永 祐一	藤原 英昭
		ブリーダーズカップダートマイル	G1	ダート	1600m	ピンシャン	7/8	川田 将雅	森 秀行
						ジャスパークプリンス	8/8	福永 祐一	森 秀行
		ブリーダーズカップスプリント	G1	ダート	1200m	マテラスカイ	5/9	川田 将雅	森 秀行
		ブリーダーズカップディスタフ	G1	ダート	1800m	マルシュロレーヌ	1/11	O.マーフィー	矢作 芳人
12月12日	香港	香港ヴァーズ	G1	芝	2400m	グローリーヴェイズ	1/8	J.モレイラ	尾関 知人
						ステイファースリッシュ	5/8	C.ホー	矢作 芳人
		香港スプリント	G1	芝	1200m	レシステンシア	2/12	C.スミオン	松下 武士
						ダノンスマッシュ	8/12	川田 将雅	安田 隆行
						ピクシーナイト	競走中止	福永 祐一	音無 秀孝
		香港マイル	G1	芝	1600m	サリオス	3/11	D.レーン	堀 宣行
						インディチャンプ	5/11	C.スミオン	音無 秀孝
						ヴァンドギャルド	6/11	K.ティータン	藤原 英昭
						ダノンキングリー	8/11	川田 将雅	萩原 清
		香港カップ	G1	芝	2000m	ラヴズオンリーユー	1/12	川田 将雅	矢作 芳人
ヒシイグアス	2/12					J.モレイラ	堀 宣行		
レイババレ	6/12					C.スミオン	高野 友和		

(2) 外国馬の J R A 競走への出走状況

出走月日	競走名	馬名	性	年齢	所属国	着順/出走頭数
11月28日	ジャパンカップ(G I)	グランドグローリー	牝	5歳	仏	5/18
		ジャパン	牡	5歳	愛	8/18
		ブルーム	牡	5歳	愛	11/18

【別表 12】

◎ 特別振興事業について

① 競馬振興事業（令和3事業年度）

【JRA直接実施事業】

事業名	事業内容	実施額（円）
1. 競馬理解増進総合事業 （競馬場誘引型） （催事型） （メディア活用型） （馬事紹介型）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競馬場への来場を誘引するための催事の実施 ・ 競馬未経験層を主な対象としたキャンペーンや催事等の実施 ・ メディア等を通じた競馬未経験層への理解増進 ・ 馬を活用した催事等の実施 	2,074,785,676
2. 厩舎関係者救護体制円滑化事業	医療機器整備を通じた、競馬場等の近隣医療機関との連携強化	31,209,400
3. 厩舎関係者救護体制特別支援事業	新型コロナウイルス感染症蔓延下における関係医療機関に対する医療資源確保の支援	231,747,707
4. 競走馬の獣医師を目指す学生のための学業奨励事業	競走馬の獣医師を目指す大学の獣医学生を対象とした奨学金制度	28,270,000
5. 国際競馬振興事業	国際競馬振興関連経費、諸外国における日本競馬プロモーション展開等	72,108,423
6. JR武蔵野線船橋法典駅臨時口昇降設備改修事業	中山競馬場に直結するJR武蔵野線船橋法典駅臨時改札口への階段改修工事の設計	9,504,000
7. ギャンブル等依存症対策事業	全国公営競技施行者連絡協議会が実施するギャンブル等依存症対策に取り組む民間団体への支援等	8,263,000
8. 民間における乗馬普及体制持続化特別支援事業【直接実施分】	大学馬術部・民間乗馬クラブ等の馬術の裾野拡充に資する取組みを行う団体に対する支援	118,000,000
9. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた馬事公苑整備工事に伴う各種馬術競技会開催等支援事業【直接実施分】	東京競馬場等の馬術競技会開催に必要な競技用馬の確保等支援	4,147,616
10. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とする「馬術の裾野拡充」及び「引退競走馬のセカンドキャリア形成等に向けた取組み支援」事業【直接実施分】	馬術の裾野拡充に資する映像情報の制作・提供、引退競走馬の諸課題に関する調査研究、障害者乗馬・ホースセラピー活動支援啓発等	1,981,762,889
11. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた会場整備等支援事業	東京オリパラ組織委員会の取組みへの協力を通じた、馬事振興・競馬産業への理解醸成	1,758,901,170
12. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会馬術競技開催に向けたJRA馬事公苑整備事業	JRA馬事公苑諸施設の整備	57,600,000
合 計		6,376,299,881

【助成事業】

事業名	事業実施主体	事業内容	交付額(円)
1. 競馬振興会館移転事業	(公財)馬事文化財団	新橋分館の GateJ. 東京を新本部ビルに移転	120,000,000
2. ウォーキングマシン導入支援事業	(一社)日本調教師会	トレーニング・センターにおける調教補助設備(ウォーキングマシン)導入に係る支援	42,081,727
3. JBBA 人材養成事業用施設整備事業	(公社)日本軽種馬協会	JBBA が行っている軽種馬育成技術者養成研修の施設改修	51,000,000
4. JBBA 人材養成施設トレーニング機器整備事業	(公社)日本軽種馬協会	改修後の寮施設に設置する寮生用トレーニング機器の整備	17,000,000
5. 引退名馬繋養展示事業	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	競馬の発展に貢献した名馬とのふれあい創出、名馬の余生の環境作り	53,668,000
6. 競走馬マイクロチップ埋込推進事業	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	マイクロチップ埋込に係る経費の一部補助	19,369,000
7. 日本競馬の情報・技術発信事業	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	海外へのレース映像配信、ウェブサイト等を通じた海外への日本競馬情報発信及び人材交流等を通じた技術発信	130,000,000
8. 民間における乗馬普及体制持続化特別支援事業【助成分】	(公社)全国乗馬倶楽部振興協会	大学馬術部・民間乗馬クラブ等の馬術の裾野拡充に資する取り組みを行う団体に対する支援	280,000,000
9. 地方競馬との共同広報事業	岩手県競馬組合 特別区競馬組合 兵庫県競馬組合	地方競馬主催者と共同で行う情報提供・広報宣伝	233,527,080
10. 軽種馬改良情報システム整備事業	(公社)日本軽種馬協会	軽種馬改良情報システムの改修	46,000,000
11. 地方競馬振興促進事業	地方競馬主催者等	地方競馬場、発売施設の整備等	306,471,000
12. 競走馬理化学研究所における新薬物検査体制確立事業	(公財)競走馬理化学研究所	検査機関として IFHA から指定を取得し維持するために開発した新検査法による検査体制の確立	1,368,000,000
13. 競走馬理化学研究所における競走馬の遺伝子ドーピング検査法確立事業	(公財)競走馬理化学研究所	競走馬に対する不正な遺伝子操作の検査法の確立	91,500,000
14. 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた馬術競技強化対策事業	(公社)日本馬術連盟 (公社)日本近代五種協会	東京オリンピック・パラリンピックで好成績をあげるための選手強化、優良競技馬の確保等	1,034,250,000 42,000,000
15. 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた馬事公苑整備工事に伴う各種馬術競技会開催等支援事業【助成分】	(公社)日本馬術連盟 (公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会	馬事公苑整備工事に伴い影響を受ける各種馬術競技会が安定的に開催されるための支援	135,000,000 15,000,000
16. 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とする「馬術の裾野拡充」及び「引退競走馬のセカンドキャリア形成等に向けた取り組み支援」事業【助成分】	(公社)全国乗馬倶楽部振興協会	馬に係る人材の養成、障害者乗馬・ホースセラピー活動の充実、引退競走馬の乗用馬への転用促進等	623,000,000
合計			4,607,866,807

②畜産振興事業（令和3事業年度）

	事業名	事業実施主体	事業内容	交付決定額 (千円)
1	海外食肉処理ロボット技術等調査推進事業	公益財団法人 日本食肉生産技術開発センター	食肉の輸出促進のための食肉処理ロボット技術の推進とわが国の「人道的とさつ」技術の向上を図る。	55,321
2	畜産に関わる仕事の理解促進事業	公益社団法人 中央畜産会	農業高校生等将来の担い手候補に、多種・多様にある畜産に関わる仕事のやりがいや魅力を伝えることによる興味喚起を図る。	84,058
3	日本蜜蜂養蜂次世代担い手育成調査研究事業	一般社団法人 トウヨウミツバチ協会	日本蜜蜂飼育の次世代リーダーを育成するため、全国的に日本蜜蜂飼育の実態調査を実施するとともに、講習会や検討会を開催する。	15,372
4	地域産飼料資源のサプライチェーン構築事業	国立大学法人 山形大学	エコフィードや自給飼料の活用が困難な中小規模養豚経営の安定化を図るため、子実用トウモロコシを核とした転作穀物の輪作体系を実証し、その規格外品や副産物等の地域産飼料資源を有効活用するためのサプライチェーンを構築し、生産現場で実証する。また、地域産飼料資源を活用して生産した豚肉及びその加工品の品質評価を行い、地域立脚型の畜産物生産と販売による経済的効果を検証する。	53,395
5	高受胎性を有する牛体外受精支援システムの開発事業	国立大学法人 横浜国立大学	畜産現場における和牛の受胎率低下に対応するため、高受胎性を有する新しい体外受精支援システムを開発し和牛の受胎率向上を目指すとともに、家畜人工授精師の負担軽減を図る。	35,694
6	牛受精卵生産工程の品質管理技術開発事業	国立大学法人 京都大学	受胎に成功した牛受精卵由来の胎盤のヒストン修飾と各種生産工程で作出された牛受精卵のヒストン修飾の共通性（エピゲノム記憶）を精査し、受精卵の受胎能力と関連するヒストン修飾をエピゲノムマーカーとして同定するとともに、得られたエピゲノムマーカーを指標にして、これまでになかった牛受精卵生産工程についての有効な品質管理技術を開発する。	62,863
7	昆虫タンパク質の豚用飼料有用性評価及び普及事業	国立大学法人 香川大学	食品廃棄物等の未利用資源を餌として育てたアメリカミズアブの幼虫を原料の一部とする飼料を製造し、豚に給餌して、生産性や畜産物の品質に及ぼす影響を明らかにし、得られた知見を畜産農家に普及するとともに、将来の安定供給が危ぶまれる魚粉や大豆粕等の含有量を抑えた飼料の有用性を示し、持続性の高い畜産の実現と飼	67,206

			料自給率の向上を図る。	
8	代謝刷り込みによる牛放牧肥育技術開発事業	国立大学法人 鹿児島大学	耕作放棄地、限界集落等の植物資源をフル活用し、牛肉の効率的な生産を図るため、新規生物科学概念「代謝刷り込み（代謝インプリンティング）」を用いて、放牧でも太る体質を胎児期や新生児期の栄養や光刺激により獲得させ、放牧肥育でも良質で十分な肉量を生産しうる新飼養システムを開発する。	111,722
9	乳牛の低受胎対策技術の実行可能性検証事業	国立大学法人 北海道大学	前事業において精漿タンパク質のひとつであるオステオポンチンを用いた低受胎牛対策技術の有効性と課題が明らかになったことから、同技術を実用化するため、オステオポンチンの受胎性改善効果につながる分子領域の決定及び同領域を有するペプチドの調製法、安全性の確認及び低受胎牛（リピートブリーダー牛及び高泌乳牛）における受胎性改善効果を検証する臨床試験を行うとともに、その治療薬として認証に必要な臨床データを収集する。	87,938
10	人工授精普及定着化事業	公益社団法人 日本馬事協会	国内生産馬の質の向上に資するべく、技術レベルの高い獣医師等を確保し、凍結精液を用いたAIが馬の改良に有効であることを示す。	5,626
11	牛生体内卵子回収技術マニュアル作成事業	公益社団法人 畜産技術協会	牛生体内卵子回収・体外胚生産技術について、高度な技術を利用可能な畜産技術者の養成に資するべく、実践的な技術マニュアルを作成する。	6,287
12	家族経営における畜産DX推進事業	公益社団法人 中央畜産会	家族経営における畜産DXの推進を図るとともに、魅力ある家族経営の育成を図るべく、畜産DX技術導入が、労働負担軽減や所得向上に与える効果を調査し、導入効果を評価する。	145,361
13	ドローン活用飼料増産技術実証・普及事業	一般社団法人 日本草地畜産種子協会	草地や水田での飼料作物生産拡大と生産性の向上を進め、飼料増産に資するべく、ドローンを活用し、これまで実施が困難であった高栄養価牧草の急傾斜地や石礫の多い土地への追播等による植生改善や水稻立毛中の水田への播種による単収向上を省力的・低コストで実施する技術等を実証・普及する。	113,783
14	放牧地における家畜糞分解適正化事業	国立大学法人 北海道大学	家畜糞が放牧地の牧草を覆い生育を阻害する要因を明らかにし、また、糞分解時に排出される温室効果ガス量	3,826

			は最低限に留めることが重要であるため、放牧地に排出された家畜糞とその下の土壌中の微生物叢と糞分解速度やガス排出量等の関連性を明らかにし、それを適正化するためのエサと土壌管理法を提案するとともに、家畜糞分解を最適化した際のコストメリットを数値化し、分かりやすい指標として農家に提供する。	
15	温暖化に適応した豚育種手法開発事業	国立大学法人 東北大学	豚は暑熱ストレスによって生産性が低下し、温暖化によってその影響が拡大することが予想されることから、暑熱の影響を考慮した遺伝的能力の評価手法と、耐暑性に優れた豚の育種手法の開発を行う。	96, 927
16	非ゲノム情報による牛凍結精液受胎性評価法開発事業	国立大学法人 東京農工大学	凍結精液による人工授精後に受胎性の低い雄牛の早期発見・低コストのスクリーニング手法の確立に向けて、従来手法に加え環境要因によって変化するDNAメチル化状態のビッグデータを利用し、人工知能を用いた新しい受胎性予測手法を開発する。	52, 196
17	イムノシンバイオティクスとDNAマーカーによる豚の腸内環境改善を介する抗病性向上手法の開発事業	国立大学法人 東北大学	豚の抗病性向上に関するこれまでの研究を進展させ、抗病性に寄与する遺伝型と海藻残渣を利用したイムノシンバイオティクス飼養による腸内環境の改善を介する免疫能向上に着目し、養豚における薬剤に依存しない抗病性向上手法の発展的開発を行う。	103, 858
18	ブライダルチェック導入による牛受胎率向上事業	国立大学法人 山口大学	乳肉用牛群の生産性に影響を与える潜在的要因を繁殖供用開始前に検出するため、牛群代謝衛生診断、遺伝的不良形質診断、及び繁殖予備能診断から成る新規「ブライダルチェック」を未経産牛群に導入し、光学式授精適期検知システムとの融合により受胎率を向上させる飼養管理システムを構築するとともに、乳肉用未経産牛の受胎性に与える有用性を検証し、新規技術体系としての実用化を目指す。	92, 032
19	木質由来関節炎治療薬開発事業	国立大学法人 北海道大学	これまでに確立した新規ポリ硫酸ペントサンの関節炎治療効果の検証に加え、それを説明できる抗炎症作用の機序の解明とともに、安全に食用動物に活用できるよう投与後の代謝動態及び体内残留を分析し、安全・安価な物質として産業動物の生産性向上に活用するための基盤構築を行う。	97, 517

20	快適性に配慮した肉用牛の飼養管理普及事業	公益社団法人 畜産技術協会	アニマルウェルフェアに配慮した肉用牛の飼養管理の実態を把握した上で、優良事例調査を実施し、これらの情報を肉用牛関係者及び生産者等に提供する。	9,643
21	快適性に配慮した豚の飼養管理推進普及事業	公益社団法人 畜産技術協会	アニマルウェルフェアに配慮した豚の飼養管理に関する優良事例等の調査を実施し、これらの情報をAWの考え方や具体例等の情報を養豚関係者及び生産現場に提供する。	10,438
22	ジビエ加工品品質評価推進事業	一般社団法人 食肉科学技術研究所	ジビエ利用の有効な手法であるソーセージ等の加工品等について客観的な品質評価等を行い、その品質の向上と消費の拡大を図る。	25,606
23	原皮裁断技術開発実用化推進事業	食肉生産技術研究組合	我が国のと畜機能の維持を図るため、原皮の裁断装置を開発することにより原皮の効率的かつ円滑な処理を促進する。	26,580
24	農畜連携による畜産経営の強化調査事業	一般社団法人 全日本畜産経営者協会	我が国の食料自給率向上のため、全国の畜産経営者に対しアンケート調査を実施するとともに、ワークショップを行う。また、地域資源が農畜連携により有効に循環されている事例を調査し、農畜連携が確立された背景、課題とその解決方法、将来の持続可能性を分析するとともに、「農畜連携指針」にまとめる。	14,358
25	和牛の繁殖能力の遺伝情報活用手法実証事業	公益社団法人 全国和牛登録協会	肉用牛の繁殖基盤強化のため、初産月齢や分娩間隔等のデータを活用し、ゲノムワイド関連解析によって繁殖能力に関連するSNPを網羅的に複数検出し有用なDNA情報を探索し、それらを既存のSNPチップに追加搭載することによって、種畜を効率的に選抜する手法を確立し、繁殖能力の高い牛群整備を目指すとともに、第12回全国和牛能力共進会鹿児島会場での繁殖能力が優秀な個体の実証展示等を通じて確立した選抜手法の普及を図る。	75,649
26	国産食肉食育啓発推進事業	全国食肉事業協同組合連合会	国産食肉の生産から流通、そして食卓に届くまでの過程の説明に併せ、国産食肉の安全性、健康面の効用等に関する資料・教材の充実、出前講座・研修会、食育料理セミナー、体験交流会、農業祭等のより実践的な取組を通じて、国産食肉への正しい知識の普及、啓発に努める。また、「命をいただくことの大切さ」等、食肉ならではの食	189,449

			育を推進し、安全、安心な食肉生産への理解醸成と国産食肉の需要拡大を図る。	
27	映像を活用した畜産情報推進事業	公益社団法人 中央畜産会	わが国の畜産経営における国際競争が激化する中で、その収益性を高め、かつ多様な担い手の活躍の場を広げるとともに後継者を確保するため、優れた畜産物生産・経営技術や先進的な畜産物輸出促進活動等の映像情報を収集し、わかりやすく質の高い映像情報として加工・編集し、グリーンチャンネル及びインターネット等を活用し情報発信することで、持続的な畜産経営の育成及び消費者に対し畜産への理解醸成を図る。	97, 350
28	乳用牛の新たな改良手法開発事業	一般社団法人 家畜改良事業団	ゲノミック情報を活用した新たな形質の遺伝的能力評価について調査・開発するとともに、わが国の乳牛改良手法の効率化及び高度化を図る。	79, 130
29	生乳と乳製品の競争力強化支援事業	公益財団法人 日本乳業技術協会	可能な限り有利に生乳を販売し経営を続けようとする取組みについて、6次化乳製品の安全性及び品質・信頼の向上のための技術的支援を行うとともに、生乳取引における検査の信頼性確保のための認証制度の改善・普及支援を行う。	79, 878
30	畜産汚水浄化施設のA I支援型リモート管理技術開発・普及事業	一般財団法人 畜産環境整備機構	養豚の汚水浄化施設における水質データを遠隔から収集し、A I技術により高度な解析を行い、遠隔操作によって汚水浄化施設を制御するシステムを構築することで養豚排水の硝酸性窒素等の濃度を安定的に低下させる技術の開発及び普及を行う。	110, 062
31	酪農家飼養環境及びバルク乳成分調査事業	国立大学法人 北海道大学	全国規模で酪農家調査を実施し、その飼養環境と乳中脂肪酸組成や香気成分等のバルク乳成分とを関連付けた実際の現場で実用可能なデータベースを構築するとともに、そのデータベースを活用し、異常風味発生リスクを低減するための飼養管理方法を開発する。	44, 318
32	褐毛和種高知系の肉質・ブランド力強化事業	国立大学法人 高知大学	地方特定品種である褐毛和種高知系(土佐あかうし)の赤身肉・少頭数品種という特徴を活かし国内外の市場での差別化戦略を推進し、国民への多様な国産和牛肉の供給及び輸出を視野に入れた市場を拡大するため、その美味しさの特徴を明らかにし、特徴的な成分についての網羅的解析を行い	67, 934

			簡易評価技術を開発するとともに、独自の枝肉格付けであるTRB (Tosa Rouge Beef) の平準化と地域資源の給餌による肉質向上、飼養管理技術を検討する。	
33	肉用牛における安定的な子牛生産のための妊娠牛健診開発事業	国立大学法人 宮崎大学	肉用子牛の供給不足と肉用牛の死産率が増加していることから、現在の交配後30～60日の受胎確認と臨床的な異常時等の対応のみの繁殖牛の健康管理に加え、ヒトのように事前に母牛と胎子の状態を検診する妊娠牛健診を実施し、安定的な子牛生産を図る。	62,035
34	ジャージー種によるA2牛乳及び乳製品の開発事業	国立大学法人 岡山大学	岡山県蒜山地域等のジャージー種を対象としてβ-カゼイン遺伝子CSN2のA1/A2型を調べるとともに、A1及びA2牛乳並びにA1及びA2発酵乳製品におけるβ-カゾモルフィンの生成及び分解並びにその制御要因を明らかにし、得られた知見を生産者にフィードバックし、A2/A2ジャージー種の集約計画及びA2牛乳及び乳製品の製造販売戦略を策定する。	3,920
35	蜜蜂飼料（代用花粉エコフィード）の開発事業	大阪府立園芸高等学校	日本でも入手可能な原料（植物性食品廃棄物）を用いて、輸入品よりも優れ、エコフィードとしても登録可能な国産の蜜蜂飼料（代用花粉）を製造し、その成果を養蜂関係者等へ提供する。	3,639
36	国産チーズ・イノベーション事業	学校法人日本医科大学 日本獣医生命科学大学（代表機関） 公益財団法人 とかち財団	日本独自のチーズスターター、麹菌を用いた麹菌熟成チーズ、ホエイ濃縮によるブラウンチーズの三つの開発事業の深耕と普及を図るとともに、これらの推進により、国内酪農生産基盤の安定・強化と乳資源廃棄ゼロの持続可能な開発目標の取組みにつなげる。	86,393
37	国産食肉加工品国際競争力向上・製造基盤強化対策事業	日本ハム・ソーセージ工業協同組合	国産食肉加工品の脅威となり得る海外製品の製造・品質等の調査・分析、国産品の輸出促進のための輸出先国の規制や共同輸出等に係る調査、海外の環境負荷低減の取組みの把握等を行い、国内食肉産業の国際競争力強化、国産豚肉等の利用拡大を図る。	103,167
38	コロナ感染症下の食肉消費動向等分析事業	公益財団法人 日本食肉消費総合センター	消費者へのWEB調査、食肉関連事業者への郵送調査、業界関係者等からのヒアリング調査を実施するとともに、新型コロナ禍での食肉の流通・消費事情の変化を把握・分析し、その結果を関係者に提供することにより、経営環境の激変に対応した経営展開を図る。	23,436

39	和牛肉の新価値観構築事業	一般社団法人 全国肉用牛振興基金協会	和牛肉の消費者ニーズの多様化に対応した新しい価値観の構築のため、品質並びに食味形質を網羅的にデータベース化し、品質特性の数値化とこれによる分類を行い、新たな和牛肉の客観的評価法の確立や需要に応じた生産・供給体制の構築に向けた検討を進める。また、第12回全国和牛能力共進会鹿児島会場において、来場者（生産者、後継者、消費者等）に向けた普及啓発活動等を通じて、牛肉の新価値観構築の推進を図る。	110,980
40	日本チーズ認証基準策定普及事業	一般社団法人 日本チーズ協会	各工房が衛生的に品質の優れ、消費者のニーズに合うチーズを製造するとともに、優れた国産ナチュラルチーズを生産するための、工房の認証制度はどのようにあるべきかについての調査を行い、その結果をもとに日本チーズ認証基準を策定し、その普及を図る。	22,424
41	輸出向け肉用牛取扱改善推進事業	公益財団法人 日本食肉生産技術開発センター	牛肉の輸出拡大に資するべく、食肉処理施設における動物福祉に配慮した牛の取扱い方法のマニュアルの作成普及とともに、鼻環に代わる簡易型頭絡の開発等を行う。	19,464
42	肺炎罹患部位における抗菌薬濃度解明事業	国立大学法人 鹿児島大学	肺炎罹患部位へ移行した抗菌薬濃度を明らかにし、より確実かつ効果的な耐性菌を出現させない抗菌薬療法の確立、抗菌薬の使用量削減、薬剤耐性菌の出現抑制に貢献するため、肺炎罹患牛に抗菌薬を全身投与する前後において、血液及び気管支肺胞洗浄液を経時的に採取、解析することにより、抗菌薬の肺炎罹患部位への移行性を解明し、食の安心安全を大きく推進させる。	49,692
43	牛伝染性リンパ腫リスク検査法開発事業	学校法人麻布獣医学園 麻布大学	牛伝染性リンパ腫ウイルス（BLV、(旧名：牛白血病ウイルス)）の蔓延及び経済的損失最小化のため、伝播性及び病原性が高いウイルス株を迅速に検出可能な検査方法を開発することにより、様々な感染状況の農場での対策を実行することを可能とし、家畜伝染病予防法で定められた牛の伝染病で最も発生件数が多い牛伝染性リンパ腫への有効かつ実行可能な対策を推進する。	56,454
44	人工フェージによる	国立大学法人 京都大学	ブタの感染症の病原体を適切に判定	38,399

	Swine PathoScan 法の開発事業		するため、ブタ感染症として重要視されている監視伝染病及び食の安全に関わる病原体のうち、細菌・ウイルス・寄生虫に対して血液中あるいは唾液中に誘導される抗体を使用して、その抗体に結合する病原体由来タンパク質に対するペプチド発現人工ファージライブラリーを用いてエピトープ部位を決定することで、そのブタがどのような感染症に対して罹患したのかを網羅的に解析する Swine PathoScan 法を開発する。	
45	牛伝染性リンパ腫の損失低減技術開発事業	学校法人 東京農業大学	牛伝染性リンパ腫の感染・発症に対する抵抗性牛及びハイリスク牛に特異的な指標に着目し、生産現場で実用的に使用できる対策指標を実現する基盤技術の研究を行うことにより、牛伝染性リンパ腫ウイルス（BLV）感染状況に応じた対策の実施と農場単位での清浄化を可能とし、最終的には国レベルでの BLV 清浄化に貢献する。	109,798
46	乗用馬防疫推進事業	公益社団法人 全国乗馬倶楽部振興協会	馬インフルエンザ等馬伝染性疾病の防止を図るため、乗馬クラブ等で飼養されている乗用馬に対し、馬インフルエンザ、日本脳炎及び破傷風の3つの馬伝染性疾病の予防措置としてのワクチン接種の的確な実施を推進する。	36,725
47	馬飼養衛生管理特別対策事業	公益社団法人 中央畜産会	多様化している馬の飼養衛生管理の充実強化を図るため、地域の馬獣医療を担う獣医師の衛生管理技術の向上や、疾病の早期診断や病性鑑定技術の保持・向上を図るとともに、競走馬以外の馬飼養衛生管理についての総合的馬自衛防疫体制の確立を図る。	51,533
48	馬伝染性疾病防疫推進対策事業	公益社団法人 中央畜産会	馬の生産振興に大きな影響を及ぼす馬インフルエンザ、馬鼻肺炎等伝染性疾病の発生防止、育成馬及び生産地繁殖雌馬の損耗防止の観点から日本脳炎、破傷風、馬ゲタウイルス感染症等疾病に対する免疫の確保、維持・構築を図るため、生産者等と一体となったワクチン予防接種等を推進する。	210,500
49	家畜疾病・自然災害緊急支援体制推進事業	畜産経営支援協議会	地域の家畜衛生の改善や畜産経営の安定と向上に資するため、口蹄疫、鳥インフルエンザ、豚熱等の家畜伝染性疾病や台風、地震等大規模災害が発生した際の初動対応に必要な緊急用機材及び資材の備蓄、運搬を支援する。	59,977

50	飼養衛生管理基準普及啓発推進対策事業	公益社団法人 中央畜産会	畜産関係者に対し飼養衛生管理基準の普及啓発を迅速かつ的確に実施し、防疫措置・体制を強化・推進する。	49,395
51	農場管理専門獣医師等認定・活動支援事業	公益社団法人 日本獣医師会	広く畜産経営及び国民に認知される農場管理獣医師等の養成研修体制の整備による専門獣医師制度を確立する。	93,046
52	土壌凍結地帯の放牧草地におけるペレニアルライグラスの追播技術高度化事業	国立大学法人 北海道大学	北海道東部地域等の土壌凍結地帯におけるチモシー主体放牧草地へのペレニアルライグラスの追播導入の効果は年による変動が大きいことから、その対策として秋の草地利用状況や気象データからの冬枯れリスク評価法に基づきペレニアルライグラスを追播することにより、草地におけるペレニアルライグラス被度を安定維持するための追播技術の高度化を図り、現場への普及につなげる。	11,880
53	乳母豚の生産現場での活用手法開発事業	学校法人麻布獣医学園 麻布大学	生産性の向上を目的とした多産系母豚の導入が進む生産現場では「初乳摂取量」が不足している個体が増えていることから、全ての子豚へ十分に初乳を飲ませるための補助技術として、人為的泌乳制御モデル(乳母豚)の乳の効果を検証し、乳母豚の生産現場における活用方法を調査する。	13,365
54	子牛の感染性下痢症の対策基盤事業	国立大学法人 東北大学	子牛の感染性下痢症の総合的な対策基盤の確立を図るため、下痢症の3大病原体の日本全国での疫学解析、前事業で同定した薬剤シーズに対する農場の子牛を用いた効果の解析、混合感染メカニズムの解析を行う。	39,598
55	監視伝染病以外の牛病原体の検査システム開発事業	国立大学法人 東京農工大学	監視伝染病対象外疾患の原因病原体について、牛農場で獣医師が網羅的・迅速・簡便にスクリーニングできる検査システム(dembo-RCA)や検査所における確定検査システム(dembo-PCR)、更には未知の病原体を検出するシステムを開発するとともに、将来的に大学が監視伝染病以外の病原体検査を担い、行政による病原体検査を補う体制作りを提案する。	65,630
56	黒毛和種肥育牛のコバルト栄養改善事業	国立大学法人 京都大学	農家及び飼料製造会社が適切な量のコバルトを含む飼料を生産することを可能にし、黒毛和種肥育牛において生じているコバルト欠乏を防ぐ効果的な飼養管理技術の普及に貢献するため、黒毛和種肥育牛におけるコバルト要求量を策定するとともに、黒毛和	3,555

			種肥育牛に給与されている配合飼料の主な原料中のコバルト含量を明らかにする。	
57	若齢種雄牛精液品質高位平準化技術開発事業	一般社団法人 家畜改良事業団	若齢期の造精能力を推定する検査技術及び射精された精液の品質を高位平準化する生産技術を開発する。	70, 277
58	牛肉の食味指標値の遺伝的評価研究開発事業	一般社団法人 家畜改良事業団	先行事業で開発した30～40項目の成分値から12の分析型官能評価値を推計し、最終的に「食感、味、におい」の3つの指標に集約する手法を更に簡略化し、成分分析を行わずに近赤外分光や核磁気共鳴等の測定機器の生データをを用いて最終3指標を推計する実用化手法を開発する。また、これら3指標の遺伝的能力を評価する手法を実用化し、新たな指標を活用した地域ごとに特徴のある産地形成を推進する。	88, 192
59	肉用牛削蹄技術安定化事業	公益社団法人 日本装削蹄協会	肉用牛でこれまで実施された削蹄後の蹄の背壁と蹄底面とで構成する蹄角度や蹄壁長等を測定調査しデータを蓄積し、生産性の向上とアニマルウェルフェアにつながる蹄における基準値を設定する。	57, 850
60	小笠原甘露蜂蜜調査事業	一般社団法人 養蜂産業振興会	わが国で採蜜されていないとされていた甘露蜂蜜がなぜ小笠原で採蜜が可能なのかについて調査する。	3, 951
61	馬の流通に係る若手後継者による上場馬調教事業	公益社団法人 全国乗馬倶楽部振興協会	地域において育成に従事する若手後継者を活用し、地域で生産された馬に対し、付加価値を向上させるとともに、若手後継者の調教技術の向上を育成するため、地域の生産団体において生産され市場上場を予定している1～4歳馬を5頭程度選抜し、生産団体に指定された会場に集め、若手後継者が市場上場までの3ヶ月程度調教育成することを通じて、生産団体から指名及び自薦された若手後継者が集められた馬を教材とした育成調教技術の習得に取り組む。	10, 344
62	孵化場体質強化推進事業	一般社団法人 日本種鶏孵化協会	良質素ひなの安定供給を図るため、鶏ひなふ化・え付け羽数データの収集調査及び種鶏管理や孵卵技術等の技術研修を行い、種鶏孵卵場経営の安定化を図る。	11, 358
63	飼料害虫ツマジロクサヨトウの防除対策事業	国立大学法人 宮崎大学	前事業の成果も踏まえ、飼料害虫ツマジロクサヨトウによる被害実態と被害に関わる要因調査と耕種的・物理的	84, 901

			防除法を開発し、安心・安定的な飼料生産に必要な防除適期や防除の可否を含めた、総合的作物管理手法の技術マニュアル及び技術普及資料を作成・公知する。	
64	馬人工授精技術普及調査事業	一般社団法人 日本家畜人工授精師協会	馬の繁殖に係る実務者等に対し、人工授精を普及する上での課題や問題点等を調査し、教書のための資料を作成する。	2,749
65	肉用牛改良形質情報収集強化事業	一般社団法人 家畜改良事業団	肉用牛の生産性向上を図るため、成長形質に係る情報収集を強化することで、正確度の高いゲノミック評価を実用化し、優良雌牛群の整備等や遺伝的能力に基づく肥育の合理化を図る。また、ICTにより収集する情報が新たな改良形質になり得るかを検証する。	89,628
小 計				3,865,632

(注) 上記の各事業は、(公財)全国競馬・畜産振興会を通じて実施するものである。

事業名	事業実施主体	事業内容	実績額 (千円)
畜産振興事業附帯事業	本会	学識経験者からなる審査委員会を設置し、新規事業を選定するとともに、特定法人において助成金交付業務を行う。また、学識経験者からなる評価委員会を設置し、事業評価を行う。	98,458
小 計			98,458
総 計			3,964,090

【別表 13】

J R A 賞 受賞馬及び受賞者

1. 競走馬部門

	受賞馬	(馬主)	(厩舎)
年度代表馬	エフフォーリア	(有)キャロットファーム	美浦・鹿戸 雄一 厩舎
最優秀2歳牝馬	ドウデュース	(株)キーファーズ	栗東・友道 康夫 厩舎
最優秀2歳牝馬	サークルオブライフ	飯田 正剛 氏	美浦・国枝 栄 厩舎
最優秀3歳牝馬	エフフォーリア	(有)キャロットファーム	美浦・鹿戸 雄一 厩舎
最優秀3歳牝馬	ソダシ	金子真人ホールディングス(株)	栗東・須貝 尚介 厩舎
最優秀4歳以上牝馬	コントレイル	前田 晋二 氏	栗東・矢作 芳人 厩舎
最優秀4歳以上牝馬	ラヴズオンリーユー	DMMドリームクラブ(株)	栗東・矢作 芳人 厩舎
最優秀短距離馬	グランアレグリア	(有)サンデーレーシング	美浦・藤沢 和雄 厩舎
最優秀ダートホース	テーオーケインズ	小笹 公也 氏	栗東・高柳 大輔 厩舎
最優秀障害馬	オジュウチョウサン	(株)チョウサン	美浦・和田正一郎 厩舎

2. 調教師・騎手部門

①調教師部門

最多勝利調教師	矢作 芳人 (栗東)
最高勝率調教師	中内田 充正 (栗東)
最多賞金獲得調教師	矢作 芳人 (栗東)
優秀技術調教師	矢作 芳人 (栗東)

②騎手部門

最多勝利騎手	C. ルメール (栗東)
最高勝率騎手	川田 将雅 (栗東)
最多賞金獲得騎手	C. ルメール (栗東)
MV J	C. ルメール (栗東)
最優秀障害騎手	森 一馬 (栗東)
最多勝利新人騎手	小沢 大仁 (栗東)